

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	シロジ沢（しろじさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、余市郡余市町浜中の海岸沿いの斜面に位置し、直下には町道がある。地質は新第三紀層堆石岩・泥岩からなり、風化が著しく、降雨時に落石と崩土があり、また過去に施工した落石防止網も腐朽が著しく取り替えが必要となっている。</p> <p>地元余市町からも落石防止対策が求められている。</p> <p>こうしたことから、山腹斜面からの落石防止を図ることを目的に計画したものである。</p> <p>・主な事業内容            山腹工    0.03ha   （丸太積工）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	34,376	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	549	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	72,728	千円
	計	73,277	千円
	分析結果（B/C）	2.13	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 現在も少量の落石崩土が続いており、今後の降雨時に拡大する恐れがあることから、地域住民の民生安定を図るために当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、山腹斜面の安定が図られ、地域住民の民生安定が図られる。また間伐材等木材の使用が計画されており有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法、で検討されており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	幌武意（ほろむい） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、積丹郡積丹町幌武意の海岸沿いの斜面に位置し、直下には町道、漁家と漁港がある。</p> <p>当地区の地質は、新第三紀層堆石岩、泥岩からなり風化が著しく融雪時及び降雨時に落石があり、たまたま町道が不通になるため地元積丹町から落石・雪崩防止対策の要望が出ている。</p> <p>こうしたことから、斜面荒廃地の安定を図り落石防止のため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容      山腹工    0.16ha    （落石防止壁）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	54,659 千円	
	総便益（B）	489 千円	
	水源かん養便益	千円	
	山地保全便益	千円	
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	197,178 千円	
	計	197,667 千円	
	分析結果（B/C）	3.62	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：融雪時、降雨時に落石崩土が続いており、今後拡大する恐れがあることから、地域住民の民生の安定を図るために当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、山腹斜面の荒廃地の安定が図られ、地域住民の民生安定が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：本事業の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	防災林造成 (国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成22年度 (5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	小樽 (おたる) (北海道)	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、小樽市の海岸に隣接した防風林であり、海からの強風によって所々が無立木地となっている。 強風によって舞い上がった飛砂により、更に防風林の裸地化が進む恐れがあることから防風垣を設置し防風対策を施し、植栽による回復を図るものである。</p> <p>・主な事業内容      防風垣 2,000m      新植 1.00ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	18,149 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	68,648 千円
		災害防止便益	千円
		計	68,648 千円
	分析結果 (B/C)	3.78	
評価結果	<p>・必要性： 裸地化が進行しているため、防風林機能を回復し、地域住民の民生の安定を図るため当事業の実施は必要である。</p> <p>・有効性： 当該事業の実施により、強風による飛砂の防止が図られ、地域住民の民生安定が図られる。また、間伐材等木材の使用が計画されており有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で計画されており、効率性は認められる</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	上一の沢（かみいちのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、三笠市東部に位置する桂沢ダムの上流域である。直下に国道452号線がある。 近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には不安定土砂と流木等が堆積しており、下流のボックスカルバートを閉塞させている。 このため、溪間工を設置し、溪床に堆積している不安定土砂を抑制し、下流の保全対象の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	11,538	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	2,304	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	47,690	千円
	計	49,994	千円
	分析結果（B/C）	4.33	
評価結果	<p>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持、向上及び下流域の保全のために当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧と溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、国道等保全対象への土砂の流入が防げることから、有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効率的かつ経済的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ポンクルキ支流（ぼんくるきしりゅう） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、夕張市南部に位置し、下流には林道がある。 近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂が流出して下流の林道に被害を及ぼす恐れがあることから、不安定土砂の安定と溪床荒廢地の復旧を図り、下流域の保全と水土保持機能の維持、向上を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	7,692	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	420	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	28,614	千円
	計	29,034	千円
	分析結果（B/C）	3.77	
評価結果	<p>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流に被害を及ぼすことから水土保持機能の維持、向上のため当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、荒廢地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能の維持、向上が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効率的かつ経済的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	野花南川（のかなんがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は芦別市南部に位置し、下流域には林道、野花南ダムがある。近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内に不安定土砂が堆積しており豪雨等により土砂が流出して、下流の林道や野花南ダム放水口に被害を与えている。</p> <p>地元からの改善要望もあることから、溪床に堆積している不安定土砂の流出を抑制し、下流域への被害の改善を図る目的で計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	60,429 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	9,758 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	111,278 千円
		計	121,036 千円
	分析結果（B/C）	2.00	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流に被害を及ぼすことから水土保持機能の維持、向上のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧と溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、保全対象への土砂の流入が防げることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ経済的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	小平沢（おびらざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署 北空知支署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、幌加内町北部に位置しており、豪雪地域のため融雪時における崩壊地が上流部に多く見られ、溪床内には不安定土砂が堆積し、豪雨時等には下流の林道、農作物に被害を与えている。 今後、豪雨時、融雪時に更に溪岸の崩壊が拡大し下流域への被害拡大が懸念されるため、下流域の被害を防止し、溪床の安定を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	36,538	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	9,901	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	73,806	千円
		計	83,707	千円
	分析結果（B/C）	2.29		
評価結果	<p>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば融雪、豪雨の際に土砂が流出し、下流保全対象に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持、向上を図るため当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られる。また間伐材等の使用も考慮されており有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工については、現地の状況に応じ最も効率的かつ効果的な工種・工法で検討されている、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	大岩（おおいわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 胆振東部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、穂別町北部に位置し、道道占冠穂別線から約300m上流の国有林境界付近に設置された昭和45年度施工の鋼製谷止工の直下流である。 既設谷止工は、コンクリート袖部の滑動、変位、鋼製越流部の変形、変位及び一部鋼材の破断、基礎地盤の洗掘等の変状が確認されており、堤体の倒壊及び堆積土砂の流出の恐れがあり早急の対策が必要となっている。 このため、当該事業で下流域の道道及び林道への土砂流出等の被害を抑止するため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	40,385	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	612	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	88,943	千円
		計	89,555	千円
	分析結果（B/C）	2.22		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 既設治山施設の現状から安全性は当面しか確保されず放置すれば倒壊等により堆積した土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす恐れがあることから、山地災害防止、水源涵養等の観点から当事業を実施する必要性はある。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、既設治山施設の保護及び下流域への土砂流出の抑止が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>			



# 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	パンケホロカンベ沢（ばんけほろかんべざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 胆振東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は、穂別町東部に位置し、道道占冠穂別線に並行する鷓川（1級河川）の支流である。                  当該流域は、記録的な平成15年8月の台風10号（156mm/日）によって、随所に崩壊が多発し、溪流内の土砂が本流鷓川まで流木混じりで流出し、流域内には未だ多量の土砂等が堆積している。特に、上～中流部の不安定土砂（約32,000m<sup>3</sup>）が顕著であり、今後の豪雨等で再び土砂移動により下流域の林道に被害を及ぼす恐れがある。                  こうしたことから、土砂流出による下流域への被害を抑制するため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 14基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	196,681	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	140,962 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	357,678 千円
	計	498,640	千円
	分析結果（B/C）	2.54	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床内に堆積している不安定土砂は、今後の豪雨等により流出し、下流域に被害を及ぼす恐れがあることから、山地災害防止、水源涵養等から当該事業を実施する必要性がある。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、流下堆積している溪床不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	川東（かわひがし） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 胆振東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は穂別町東部に位置し、平成17年8月の豪雨(69mm/日)により新たに山腹崩壊が発生した。 当流域は、平成15年9月の台風10号(156mm/日)で、下流の農作物や林道に被害が発生しており、穂別町から事業実施の要望が出されていた。 このため、当該事業により土砂流出（当該山腹崩壊地での土砂生産）を抑制し、下流域の保全と保安林機能の維持、向上を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	32,008	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益 6,343 千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 71,056 千円 計 77,399 千円		
	分析結果（B/C）	2.42	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：平成15年9月の台風及び平成17年8月の豪雨により発生した山腹崩壊により溪床内に堆積している土砂は、今後の豪雨等により流出し、下流域に被害を及ぼす恐れがあることから、山地災害防止、水源の涵養等の観点からみて、当該事業を実施する必要性は認められる。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、下流域への土砂流出の抑制が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	清美の沢（きよみのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は沙流郡日高町千栄に位置し、直下には道央圏と道東圏を結ぶ主要国道274号線がある。この地区は、平成15年8月の台風10号（308mm/日）により発生した流下水により土砂が国道を覆い通行を遮断する被害をもたらし、地域住民の生活に影響を与えた。</p> <p>既設の谷止上流部の溪床には未だに不安定土砂、流木が堆積し、このまま放置すれば今後の豪雨等により直下の国道等に被害を及ぼす恐れが大きい。</p> <p>また、平成15年の台風10号に伴う豪雨の発生以降、国道道路管理者等から対策工の早期設置要望が出されている。</p> <p>上流部の治山施設の早期概成が必要であり、水土保持機能の維持、向上を図るため本事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基（側壁、垂直壁含む）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	30,769	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	5,811	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	79,484	千円
	計	85,295	千円
	分析結果（B/C）	2.77	
評価結果	<p>・必要性：不安定土砂が大量に溪床内に堆積している状況であり、今後の豪雨等により下流の国道等に被害を及ぼすことが懸念されることから、当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が向上するとともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	竹の沢（たけのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、沙流郡日高町千栄に位置し、直下には主要国道274号線がある。この地区は、平成15年8月の台風10号(308mm/日)により発生した流下水により土砂が国道に達し、通行を遮断する被害をもたらした。また、既設の国道保全施設の上流部には表層崩壊地が見られるとともに、溪床には不安定土砂が大量に堆積している。このまま放置すれば今後の豪雨等により、崩壊が拡大し直下の国道へ土砂が流出することが懸念される。</p> <p>平成15年の台風被害以降道路管理者等から対策工の早期設置要望が出されている。こうしたことから、上流部の治山施設の早期概成が必要であることから、本事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基（側壁、垂直壁含む）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	23,095	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	10,212	千円
	山地保全便益	192,311	千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益		千円
	計	202,523	千円
	分析結果（B/C）	8.77	
評価結果	<p>・必要性：不安定土砂が大量に溪床内に堆積している状況であり、今後の豪雨等により下流の国道等に被害を及ぼすことが懸念されることから、国土保全機能の維持、向上を図るため当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が向上するとともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	檜野の沢（かしののさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は沙流郡平取町岩知志に位置し、直下には民家、漁家、畑等があり、更に下流には国道237号線がある。 この地区は、平成15年8月の台風10号(223mm/日)により山腹斜面が崩壊し多量の土砂が農耕地及び民家の脇まで流出する被害を与えた。 このまま放置すれば、豪雨等により崩壊が拡大し直下の民家等へ土砂が流出することが懸念される。 平成15年8月の台風に伴う豪雨の発生以降地域住民から早期復旧の要望が出されている。 こうしたことから、上流部の治山施設の早期概成が必要であり、水土保持機能の維持、向上を図るため計画するものである。</p> <p>・主な事業内容      溪間工      3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	20,813 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,556 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	48,354 千円
		計	50,910 千円
	分析結果（B/C）	2.45	
評価結果	<p>・必要性：不安定土砂が大量に溪床内に堆積している状況であり、今後の豪雨等により下流の農家、農耕地等に被害を及ぼすことが懸念されることから、当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が向上するとともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ウエンテシカン川（うえんてしかんがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、沙流郡門別町北部に位置し、下流域には町道、林道、人家、学校等があり国土保全上重要な地域である。</p> <p>当地区の七沢越二の沢・三の沢・五の沢・七の沢の各沢は、平成15年8月の台風10号(177mm/日)により、大規模な山腹崩壊が多数発生し、多量の土砂と流木が流出して下流の町道等に被害を与えた。</p> <p>不安定土砂は広範囲にわたって溪床に厚く堆積しており、今後の豪雨、融雪時に下流域に被害を与える恐れがある。</p> <p>崩壊地は地理的条件が厳しい奥地であり、露岩状でかつ崩壊規模が大きいので山腹工に着手することは施工性の観点から困難となっている。このため、溪間工を優先して流出土砂対策にあたり、水土保持機能の向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 8基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	194,150	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益		千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	568,859	千円
	計	568,859	千円
	分析結果（B/C）	2.93	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持、向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能の維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	コリバンナイ沢（こりばしないざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、新冠郡新冠町北部に位置し、下流域には発電施設、町道、林道等があり国土保全上重要な地域であるが、平成15年8月の台風10号(173mm/日)により山腹崩壊が発生し、多量の土砂と流木が流出して下流の林道に被害を与えた。</p> <p>不安定土砂は広範囲にわたって溪床に厚く堆積し、2基の既設溪間工（S51,61年度施工）は埋没寸前であり、今後の豪雨、融雪時等には下流域に被害を与える恐れがある。</p> <p>崩壊地は地理的条件が厳しい奥地であり、露岩状でかつ崩壊規模が大きいので、山腹工に着手することは施工性の観点から困難なため、溪間工を優先施工し、水土保持機能の向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	25,943	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	18,915	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	35,768	千円
	計	54,683	千円
	分析結果（B/C）	2.11	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持、向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能の維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小野寺の沢（おのでらのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、新冠郡新冠町西部に位置し、下流域には人家、町道、農地等があり国土保全上重要な地域であるが、平成15年8月の台風10号(173mm/日)により山腹崩壊が発生し、多量の土砂と流木が流出して下流の町道に被害を与えた。不安定土砂は広範囲にわたって溪床に厚く堆積しており、今後の豪雨、融雪時には下流に再び被害を与える恐れがある。</p> <p>また、崩壊地は地理的条件が厳しい箇所であり、山腹工の施工が困難な地域であるため、溪間工を優先して土砂流出防止対策を実施し、国土保全機能の向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	11,058	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	1,493	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	29,091	千円
	計	30,584	千円
	分析結果（B/C）	2.77	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、国土保全機能の維持、向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、国土保全機能の維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	愛犬沢（あいぬさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 留萌北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、苫前郡羽幌町の南東に位置し、下流には林道がある。          当該箇所は、溪流の流路に面する山腹斜面下部に崩壊地及び崩壊跡地が連続し、これら崩壊地からの崩落土砂が溪流内に堆積している。今後の豪雨時や融雪時に堆積土砂が流下する恐れがあると同時に、地形・地質条件を考慮すると、今後山腹斜面に新たな崩壊が発生する危険性が高いことから、不安定土砂の移動防止、溪岸浸食を防止して山脚部を固定することを目的とした谷止工を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	17,019 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	21,640 千円
		山地保全便益	37,728 千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	59,368 千円
	分析結果（B/C）	3.49	
評価結果	<p>・必要性： 豪雨及び融雪による土砂流出の状況から、放置すれば今後の融雪・豪雨等により土砂の流出が懸念されることから、本事業は必要である。</p> <p>・有効性： 当該事業の実施により、溪流に堆積する不安定土砂の流出防止を図ることができ、水土保持機能が維持・向上される。また、施工に当たり間伐材等の木材使用の計画もあり有効性が認められる。</p> <p>・効率性： 対策工については、現地の状況に応じ最も効率的かつ効果的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	2085林班沢（2085りんぱんさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 留萌南部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、苫前町古丹別地区の南東に位置し、下流には町道及び農地がある。当該溪流内には山腹崩壊の兆しがあり、今後の豪雨等により山腹崩壊が拡大し、崩落した土砂が溪流内に流出し、下流の町道に被害を与える恐れがあるため、山腹崩壊の予防と溪岸浸食の防止のため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	13,462	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	519	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	38,788	千円
		計	39,307	千円
	分析結果（B/C）	2.92		
評価結果	<p>・必要性： 溪流内の荒廃状況から、放置すれば溪岸浸食の拡大や土砂の流出が懸念されることから、町道の保全及び水土保持機能の維持、向上のため当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 本事業の実施により、土砂の流出防止を図ることができ、水土保持機能が維持・向上される。また、施工に当たり間伐材等の木材使用も計画されており、有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 当事業の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	左の沢（ひだりのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川北部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は士別市朝日町の南東に位置し、下流域には道道、町道があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廢地の復旧整備をすることにより、町道の保全及び水土保持機能の維持・向上を図るため計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	22,115	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	5,179	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	48,485	千円
		計	53,664	千円
	分析結果（B/C）	2.43		
評価結果	<p>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する不安定土砂の安定及び流出の抑制が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	富士見（ふじみ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、稚内市ノシャップ岬から南方の日本海に面した位置にあり、浸透水性（浅層型）崩壊地で、山腹斜面、溪流勾配も急峻で崩壊した土砂が下流の道道まで流出している。今後の降雨等により崩壊地が更に拡大し、崩壊した土砂が下流に流出して被害を与える恐れがあることから、山腹崩壊の防止、溪床勾配の緩和を目的に溪間工、山腹工を計画して、崩壊地の復旧整備を実施することにより、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 2,300㎡</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	27,981	千円
	総便益（B）	8,510	千円
	分析結果（B/C）	2.38	
評価結果	<p>・必要性：融雪及び豪雨による土砂流出の状況から、放置すれば直下の道道等への被害が懸念されることから、地域住民の民生の安定を図るためにも当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当事業の実施により山腹荒廃地の復旧及び土砂流出防止を図ることができ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されている。また、施工内容から費用以上に効果が期待できることから、効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	尾内沢（おないさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、利尻島鴛泊市街地の東部に位置し、昭和30年代に施工された古い谷止めが老朽化し崩れ落ちそうな状態となっている。更に上層部の崩壊地からは豪雨時に土砂が流出し道道を閉塞する災害も発生し、今後の土砂流出時に道道及び浅海漁場への土砂流出被害も懸念されることから、地元利尻富士町からも保安施設の設置要望が出されている。</p> <p>このことから、山腹崩壊地の拡大及び土砂の流出を防止することを目的に溪間工及び山腹工を計画し、崩壊地の復旧整備を実施することで、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 200㎡</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	27,885	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	519	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	69,628	千円
	計	70,147	千円
	分析結果（B/C）	2.52	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 既設谷止工の老朽化した状態を放置すれば、島唯一の主要幹線道路である道道や、浅海漁場への土砂流出被害が懸念されること、地元利尻富士町からも保安施設の設置要望がされていることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により既設谷止工の安定が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上に効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	宇遠内（うえんない） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、礼文島の西海岸に位置し、一帯が岸錐地形で過去に落石防止網を施工しているが、平成17年に未施工地から落石があり、直下の人家、漁家を直撃する被害が発生した。また、冬期には雪崩もたびたび発生している。 このため、落石や雪崩の防止を目的に山腹工を計画し、山腹荒廃地の復旧を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 2,500㎡ 40基 （雪崩防止柵）</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	38,407	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,206	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	99,560	千円
		計	100,766	千円
	分析結果（B/C）	2.62		
評価結果	<p>・必要性：一帯が岸錐地形でこれまでも落石の発生があり、放置すれば今後の融雪、降雨等により落石が発生し直下の人家、漁家への被害が懸念されることから、本事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：事業の実施により山腹荒廃地の安定が図られ、落石、雪崩が防止できることから事業の有効性は認められる。</p> <p>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率歴な工種、工法で検討されており効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ヤムナイ沢（やむないさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、利尻山を頂点とする島東部の扇状地で、源頭部には火山に起因する広大な特殊崩壊地を擁し、土砂生産活動が活発なため治山工事が実施されてきたところである。</p> <p>平成16年9月の台風18号（73mm/日）で土石流が発生し、民有林内へ土砂が流出し市街地に達した。溪床内には現在も不安定土砂が大量に堆積しており、流域内全体に被害を与えた土石流に対し、下流域の鬼脇市街地への被害を最小限にするため、国有林と民有林が一体となって流域全体の整備を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 10基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	207,570 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	2,335,162 千円
		計	2,335,162 千円
	分析結果（B/C）	11.25	
	（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。）		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 崩壊地からの土砂生産及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、異常気象時には下流に被害を与える恐れがあること、地元からも水源地帯である同地区の保安林機能の発揮が期待されており、下流域の保全等のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により下流域の保全等が図られる。また、間伐材等木材使用の計画もされており、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 本事業の計画に当たっては、事業地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上に効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	保安林整備促進（国有林）		事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）																									
事業実施地区名 （都道府県名）	石狩川源流（いしかりがわげんりゅう） （北海道）		事業実施主体	北海道森林管理局 上川中部森林管理署																									
事業の概要・目的	<p>当該地区は、北海道内各市町村を流下し水源を供給する石狩川の源流部に位置し、直下流部には、旭川市と帯広市を結ぶ大動脈である国道273号線がある。当該地区は北海道特有の寒冷・多雪等の厳しい気象条件が重なり荒廃森林が見られ、通常の施業では十分な森林造成が困難な地区であることから、育成複層林施業の導入等、植栽、保育を重点的に計画したものである。</p> <p>また、沢沿いには溪岸浸食が点在しており不安定土砂が堆積しているため、溪間工を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>植栽工</td> <td>47ha</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>複層林造成</td> <td>67ha</td> <td>保育（下刈）</td> <td>280ha</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>作業道新設</td> <td>4,500m</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>溪間工</td> <td>3基</td> <td>山腹工</td> <td>0.05ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					植栽工	47ha					複層林造成	67ha	保育（下刈）	280ha			作業道新設	4,500m					溪間工	3基	山腹工	0.05ha		
植栽工	47ha																												
複層林造成	67ha	保育（下刈）	280ha																										
作業道新設	4,500m																												
溪間工	3基	山腹工	0.05ha																										
費用対効果分析	総費用（C）		199,470	千円																									
	総便益（B）	水源かん養便益	567,523	千円																									
		山地保全便益	950,940	千円																									
		環境保全便益		千円																									
		災害防止便益		千円																									
		計	1,518,463	千円																									
	分析結果（B/C）		7.61																										
評価結果	<p>・必要性： 厳しい気象条件により疎林化し、笹で覆われ成林することが困難な森林が見受けられる。このことから、水源の確保・森林景観の維持等公益的機能・水土保持機能の維持向上を図るため当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当該事業の実施により、疎林部の解消・荒廃地の復旧・不安定土砂の安定が図られ、公益的機能・水土保持機能が維持向上される。また、事業実施に当たり、間伐材等木材の使用が計画されており事業の有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に即した植栽工など最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>																												



## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	尻岸馬内川（しりきしうまないがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、富良野市西部、空知川支流に位置し下流には林道がある。地質は火山性岩石や砂岩・礫岩・泥岩からなり平成13年度の集中豪雨により奥地に崩壊地が発生し多量の不安定土砂が堆積した。このため、溪床の不安定土砂の流出防止と溪流の荒廃防止を目的に実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	18,269	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	2,043 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	42,921 千円
		計	44,964 千円
	分析結果（B/C）	2.46	
評価結果	<p>・必要性：融雪及び豪雨による土砂流出の状況から、放置をすれば土砂流出被害拡大が懸念されることから、下流の林道の保全等、保安林機能の發揮のため本事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により溪床の安定と土砂流出防止が図ることができ水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</p> <p>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されている。また、費用以上に効果も期待できることから効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	天幕沢（てんまくざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、紋別郡遠軽町西部に位置し、下流域には旧丸瀬布町市街及び取水施設、道道、農耕地等及び林道があり国土保全上重要な地域である。 平成16年の大雪及び融雪時の影響で溪岸浸食及び土砂流出により溪床内に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂が流出し下流の林道等に被害を及ぼす恐れがあるため事業を実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工2基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	27,751	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	11,523	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	71,536	千円
		計	83,059	千円
	分析結果（B/C）	2.99		
評価結果	<p>・必要性：平成16年の大雪に起因する不安定土砂が溪床内に厚く堆積し、今後の豪雨、融雪時に下流域に被害を与える恐れがあるため、当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上するとともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：当該事業の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	ペンケ沢（べんけさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、紋別郡遠軽町南西部に位置し、下流域は旧白滝村支湧別地区で、ここを通る道道、農耕地及び林道があり、国土保全上重要な地域である。 平成10年の台風及び融雪の影響で溪岸浸食及び土砂流出があり、溪床内に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨、融雪等により土砂が流出し下流域の林道等に被害を及ぼす恐れがある。 このため、溪間工を実施し土砂の流出防止と溪床の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工5基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）		77,488	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	37,949	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	160,955	千円
		計	198,904	千円
	分析結果（B/C）		2.57	
評価結果	<p>・必要性：平成10年の台風に起因する不安定土砂が溪床内に厚く堆積し、今後の豪雨、融雪時に下流域に被害を与える恐れがあるため、当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上するとともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：当該事業の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	二十四線沢（24せんざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署 西紋別支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は網走支庁滝上町の南西部に位置し渚滑川上流の右岸川に流入するオシラネツ川流域にある。</p> <p>当地区は、平成13年9月の台風15号（74mm/日連続3日）により、溪岸浸食及び崩壊地が拡大し、土砂が流出し下流の林道に被害を与えた。このまま放置すれば今後の豪雨時等に更に溪岸浸食、崩壊地拡大により下流域に被害を及ぼす恐れが大きいことから、溪岸浸食防止及び不安定土砂の抑止を図るため本工事を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 9基 （コンクリー谷止4基・木製谷止5基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	76,175	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	32,778 千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	160,955	千円
	計	193,733	千円
	分析結果（B/C）	2.54	
評価結果	<p>・必要性： 溪岸浸食、山腹崩壊の状況からこのまま放置すれば、今後の豪雨時及び融雪時に土砂の流出が懸念されることから、本事業は必要である。</p> <p>・有効性： 当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が向上するとともに、下流の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 当該事業の計画に当たっては、間伐材を利用した、木製谷止め工を計画する等、自然景観への配慮とともに、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	武華岳の沢（むかだけのみ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、網走支庁管内留辺蘂町の南西端に位置し、区域内に民有地（鉱業施設）が介在しているとともに下流域には人家、農地、国道39号線があり、国土保全上重要な地域である。</p> <p>これまでの、集中豪雨等により溪岸浸食や山腹崩壊が見られ、溪床内には不安定土砂が堆積しており今後の豪雨等により不安定土砂が流出し下流域の国道に被害を及ぼす恐れがあることから施工するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工2基 流路工130m</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	63,695	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	6,081	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	158,968	千円
		計	165,049	千円
	分析結果（B/C）	2.59		
評価結果	<p>・必要性： 降雨等により溪岸浸食や山腹崩壊が広がっており、このまま放置すれば今後の豪雨、融雪等により土砂の流出が懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当該事業の実施により、不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効率的かつ効果的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	影の沢（かげのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、佐呂間町南西部に位置し、下流域には道道、人家等及び林道があり国土保全上重要な地域である。          溪床内は比較的安定した地区であったが、近年の豪雨等により溪岸の浸食が見られ、溪床内には不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂が流出して下流域の林道に被害を及ぼす恐れがあることから計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）		9,615	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	6,422	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	35,768	千円
		計	42,190	千円
	分析結果（B/C）		4.39	
評価結果	<p>・必要性： 豪雨等により、不安定土砂が溪床内に堆積していることから、今後の増水時に下流の保全対象に被害を与える恐れがあるため、当事業の必要性はある。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	金山川（かなやまがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、斜里郡斜里町の知床半島の付け根に位置し、下流には斜里町ウトロ市街地及び知床半島の住民生活・経済を支える国道334号線があり国土保全上重要な地域である。</p> <p>当該地域は地滑り性崩壊により荒廃し、溪床内には多量の不安定土砂が堆積している。今後の豪雨、融雪により不安定土砂が流出し下流域に被害を及ぼすことが懸念されるため本事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 5基（護岸工 1基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	70,730	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	8,629	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	158,968	千円
	計	167,597	千円
	分析結果（B/C）	2.37	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地滑り性崩壊により溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、このまま放置すれば、豪雨、融雪時に下流へ被害を及ぼす可能性が高いことから、本事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、山腹の荒廃地が安定され地域住民の民生安定が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されている。また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)	
事業実施地区名 (都道府県名)	右股4号川 (みぎまた4ごうがわ) (北海道)	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、白糠郡白糠町北部に位置し、平成15年8月の台風(123mm/日)によって各所に山腹崩壊地が発生し溪床に多量の崩壊土砂が堆積した。このまま放置すれば今後の融雪及び豪雨により崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出により下流の林道に被害を与える恐れがあることから、溪床を安定させ崩壊地の拡大を防止するため、本事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基</p>			
費用対効果分析	総費用 (C)	35,577	千円	
	総便益 (B)			
	水源かん養便益	21,927	千円	
	山地保全便益	456,847	千円	
	環境保全便益		千円	
	災害防止便益		千円	
	計	478,774	千円	
	分析結果 (B/C)	13.46		
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊地及び溪岸浸食、溪床の不安定土砂の堆積状況から、このまま放置すれば融雪、豪雨時において土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能の維持、向上が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 当事業の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	チロツペ川支流（ちろつぺかわしりゅう） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は釧路市阿寒町南部に位置し、平成15年8月の台風(136mm/日)によって随所に山腹崩壊が発生したため、溪床に多量の不安定土砂が堆積した。このまま放置すれば今後の融雪及び豪雨により崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出により下流の町道に被害を与える恐れがあることから実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 3基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	41,827	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	7,443	千円
		山地保全便益	144,451	千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益		千円
		計	151,894	千円
	分析結果（B/C）	3.63		
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊地及び溪岸浸食、溪床の不安定土砂の堆積状況から、このまま放置すれば融雪、豪雨時において土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能の維持、向上が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 当事業の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）					
事業実施地区名 （都道府県名）	成田の沢（なりたのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署					
事業の概要・目的	<p>当地区は、足寄郡足寄町東部に位置し、過去の台風、集中豪雨等により山腹の崩壊及び溪岸の浸食が発生し、溪床に多量の不安定土砂が堆積している。</p> <p>当地区は、古第三紀層砂岩を基岩とする脆弱な地質であり、今後の降雨、融雪等により、山腹の崩壊及び溪岸の浸食が更に進行し、溪床内の不安定土砂が流出して下流域の国道に被害を与える恐れがある。このため、山腹工及び溪間工を実施して土砂の流出防止及び荒廃地の復旧を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>山腹工</td> <td>1箇所</td> </tr> <tr> <td>溪間工</td> <td>2基</td> </tr> </table>				山腹工	1箇所	溪間工	2基
山腹工	1箇所							
溪間工	2基							
費用対効果分析	総費用（C）	24,038	千円					
	総便益（B）							
	水源かん養便益	4,573	千円					
	山地保全便益		千円					
	環境保全便益		千円					
	災害防止便益	63,587	千円					
	計	68,160	千円					
	分析結果（B/C）	2.84						
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に多量の不安定土砂が堆積している状況から、放置すれば今後の降雨、融雪等により土砂が流出し下流域に被害を与える恐れがあることから、水土保持機能の維持向上のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、荒廃地の復旧及び溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上される。また、間伐材等の木材の使用も計画されており、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用対効果分析の結果からも十分な効果が期待されることから効率性は認められる。</li> </ul>							

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	クオベツ四の沢（くおべつ4のさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、足寄郡足寄町東部に位置し、過去の台風、集中豪雨等により山腹の崩壊及び溪岸の浸食が発生し、溪床に多量の不安定土砂が堆積している。 この地区は、中生層粗粒砂岩を基岩とする脆弱な地質であり、今後の降雨、融雪等により、山腹の崩壊及び溪岸の浸食が進行し、溪床内の不安定土砂が流出して下流域の林道に被害を与える恐れがあるため、土砂の流出防止及び荒廃地の復旧を図るため実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工2基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）		30,288	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	10,254	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	71,536	千円
		計	81,790	千円
	分析結果（B/C）		2.70	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹の崩壊及び溪岸の浸食が発生し、溪床に大量の不安定土砂が堆積している状況から、放置すれば今後の降雨、融雪等により土砂が流出し林道に被害を与える恐れがあることから、水土保持機能の維持向上のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、荒廃地の復旧及び溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用対効果分析の結果からも十分な効果が期待されることから効率性は認められる。</li> </ul>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	三股沢（みつまたざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、中川郡本別町北東部に位置し、過去の台風、集中豪雨等により山腹の崩壊及び溪岸の浸食が発生し、溪床に多量の不安定土砂が堆積している。 この地区は、古代三紀層砂岩を基岩とする脆弱な地質であり、今後の降雨、融雪等により、山腹の崩壊及び溪岸の浸食が進行し、溪床内の不安定土砂が流出して下流域の林道に被害を与える恐れがあるため、土砂の流出防止及び荒廃地の復旧を図るため実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工2基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）		19,231	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	6,268	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	53,652	千円
		計	59,920	千円
	分析結果（B/C）		3.12	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に大量の不安定土砂が堆積している状況から、放置すれば今後の降雨、融雪等により土砂が流出し林道に被害を与える恐れがあることから、水土保持機能の維持向上のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、荒廃地の復旧及び溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用対効果分析の結果からも十分な効果が期待されることから効率性は認められる。</li> </ul>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)	
事業実施地区名 (都道府県名)	胡桃の沢 (くるみのさわ) (北海道)	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、中川郡本別町北東部に位置し、過去の台風、集中豪雨等により山腹の崩壊及び溪岸の浸食が発生し、溪床に多量の不安定土砂が堆積している。 この地区は、溶結凝灰岩を基岩とする脆弱な地質であり、今後の降雨、融雪等により、山腹の崩壊及び溪岸の浸食が進行し、溪床内の不安定土砂が流出して下流域の林道に被害を与える恐れがあるため、土砂の流出防止及び荒廃地の復旧を図るため実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工2基</p>			
費用対効果分析	総費用 (C)		9, 135	千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	602	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	28, 614	千円
		計	29, 216	千円
	分析結果 (B/C)		3.20	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に大量の不安定土砂が堆積している状況から、放置すれば今後の降雨、融雪等により土砂が流出し林道に被害を与える恐れがあることから、水土保持機能の維持向上のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、荒廃地の復旧及び溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用対効果分析の結果からも十分な効果が期待されることから効率性は認められる。</li> </ul>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	山本の沢（やまもとのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は広尾町南西部に位置し、下流域には十勝支庁と日高支庁を結ぶ国道336号があり国土保全上重要な地域である。          当該箇所は、永年の豪雨等により溪岸の浸食、山腹崩壊が発生し溪床には不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂が流出して下流に被害を及ぼす恐れがあることから、溪床の安定を図るため当事業を実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	15,385	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	741	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	47,690	千円
		計	48,431	千円
	分析結果（B/C）	3.15		
評価結果	<p>・必要性：融雪期や大雨時に土砂が流出している状況であり、今後の降雨等により国道等に被害を与える恐れがあるため、当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が向上するとともに、農地等の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	宝浜1の沢（たからのはま1のさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は広尾町南西部に位置し、下流域には国道336号、船着き場があり国土保全上重要な地域である。 当該箇所はこれまでの豪雨等により溪岸の浸食、山腹崩壊が発生し溪床には不安定土砂が堆積しており、今後更に豪雨等があれば不安定土砂が下流に流出し国道に被害を及ぼす恐れがあるため実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	14,712	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	756	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	47,690	千円
		計	48,446	千円
	分析結果（B/C）	3.29		
評価結果	<p>・必要性： 融雪期や大雨時に土砂が流出している状況であり、今後の降雨等により国道等に被害を与える恐れがあるため、当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が向上するとともに、農地等の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			

# 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	大全管理沢（たいぜんかんりざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は大樹町南部に位置し、下流域には林道がある。                  周辺森林は、カムイコタン自然観察休養林で「遊々の森」の設定もされており、国土保全とあわせてレク森等地域住民の重要な地域となっている。                  当該地域は、これまでの豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食箇所が多数見られ、溪床内には不安定土砂が堆積している。                  今後の豪雨、融雪時等に崩壊地の拡大、土砂の流出により直下の保安林管理道及び下流域に被害を及ぼす恐れがあるため実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 山腹工0.04ha</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	20,192	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	701	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	42,921	千円
		計	43,622	千円
	分析結果（B/C）	2.16		
評価結果	<p>・必要性： 融雪期や大雨時に土砂が流出している状況であり、今後の降雨等により下流域に被害を与える恐れがあるため、当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が向上するとともに、農地等の保全が図られる。また、計画に当たり間伐材等木材使用の計画もあり有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p>			



# 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	ペンケナイ中の沢（ <small>べんけないなかのさわ</small> ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は大樹町南部に位置し、直下には林道、更にその下流域には人家、道道、農地等がある。 また、ペンケナイ・ペンケナイ地区は大樹町と森林整備協定もされており国土保全上重要な地域である。 当該地域は、これまでの豪雨等により溪岸の浸食、山腹斜面の崩壊が発生し溪床には多量の不安定土砂が堆積している。今後の豪雨、融雪等により不安定土砂が流出し、下流域の林道に被害を及ぼす恐れがあることから実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	23,077	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,550	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	71,790	千円
		計	75,340	千円
	分析結果（B/C）	3.26		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：融雪期や大雨時に土砂が流出している状況であり、今後の降雨等により林道等に被害を与える恐れがあるため、当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が向上するとともに、下流の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）				
事業実施地区名 （都道府県名）	糠平温泉（ぬかびらおんせん） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署東大雪支署				
事業の概要・目的	<p>当地区は河東郡上士幌町北部に位置し、周辺の糠平湖畔や糠平スキー場等のレクリエーション施設にはたくさんの観光客が訪れ、施工予定箇所直下の糠平温泉に宿泊する人も少なくない。</p> <p>平成17年の台風14号により溪床に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂が流出し、下流の町道に被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、溪床を安定させ不安定土砂の流出を抑制するため本事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>1基</td> </tr> <tr> <td>流路工</td> <td>30m</td> </tr> </table>			溪間工	1基	流路工	30m
溪間工	1基						
流路工	30m						
費用対効果分析	総費用（C）	20,192	千円				
	総便益（B）						
	水源かん養便益	3,116	千円				
	山地保全便益		千円				
	環境保全便益		千円				
	災害防止便益	38,788	千円				
	計	41,904	千円				
	分析結果（B/C）	2.08					
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持、向上のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂が安定し、水土保持機能が維持、向上する。また計画に当たり間伐材等の木材使用の計画もあり有効性は認められる</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>						

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	幌加二の沢（ほろか2のさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署東大雪支署	
事業の概要・目的	<p>当地区は上士幌町北部に位置し、下流には発電施設の調整池がありそこに直接注ぐ沢である。 調整池には数本の支流が流入しており、発電所では発電に支障をきたさないように毎年土砂を浚渫している。 当支流は河川幅が広く水量が多いため流れが安定していないことから、溪岸浸食が激しく、河川内に多くの倒木や土砂が下流の林道等に直接被害を与える恐れがある。 このため、当事業を実施し、倒木や土砂が下流へ流出しないように流れを安定させ林地保全を図るために本事業を実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 8基</p>			
費用対効果分析	総費用（C）		90,816	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	19,991	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	168,109	千円
		計	188,100	千円
	分析結果（B/C）		2.07	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持、向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂が安定し、水土保全機能が維持、向上することから有効性は認められる</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>			

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	太田川（おおたがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署東大雪支署	
事業の概要・目的	<p>当地区は上川郡新得町北部に位置し、下流域には人家、道道、農地等及び林道があり、水源かん養及び国土保全上重要な地域である。 近年の豪雨等により溪岸浸食が見られ、溪床内には不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂が流出して下流域の林道に被害を及ぼす恐れがある。 また、上流域には荒廃した人工林が存在する。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 除伐 10ha</p>			
費用対効果分析	総費用（C）	24,038	千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	16,924	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	35,768	千円
		計	52,692	千円
	分析結果（B/C）	2.19		
評価結果	<p>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持、向上のために当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂が安定し、水土保持機能が維持、向上することから有効性は認められる</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小田西（おだにし） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は島牧村南部に位置し、地すべり地や崩壊地が多数分布しており、地すべり末端部が流下する小田西川は日本海へ注ぐ荒廃の進んだ河川である。 平成12年度から地すべり対策工を施工した箇所であるが、平成16年9月の降雨(52mm/日)を起因とする地すべり性の崩壊が更に発生した。このため、今後の豪雨等により地すべり発生が懸念されるため、下流域の既治山施設の保全を図り、沿岸漁業への影響等を防止し、更に国道を保全するため斜面崩壊地の安定を図る本工事を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.20ha(矢板土留工48m・水路工225m)</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	81,731	千円
	総便益(B)		
	水源かん養便益	499	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	222,281	千円
	計	222,780	千円
	分析結果(B/C)	2.73	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹斜面の崩壊を、放置すれば既設治山施設の破壊、下流域沿岸漁業への影響及び下流の国道の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業実施により山腹斜面の安定対策を実施することにより、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	神威協（かむいわき） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 檜山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は奥尻島の道道奥尻島線沿いに位置し、海岸段丘斜面の急傾斜地で新第三紀層の風化した転石が点在している。 また、本施行地は一部既成しているダムが満砂状態で埋没しており、上流部には不安定な土砂が堆積している状況である。 直下には奥尻島周囲を一週する道道があり、今後の降雨等により不安定な転石が落下する恐れと、不安定土砂が流出する恐れがあることから本事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 1箇所（落石防止網工）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	40,385	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	8,665	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	87,035	千円
	計	95,700	千円
	分析結果（B/C）	2.37	
評価結果	<p>・必要性： 山腹斜面に不安定な状態での転石及び溪床には不安定土砂が堆積しており、放置すれば直下の道道等に被害を与える恐れがあることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため本事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 事業実施により山腹斜面からの落石対策及び土砂流出防止対策を実施することにより、下流域の保全が図られる。また間伐材等木材使用も計画されており事業の有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており効率性が認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	長浜（ながはま） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 檜山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、奥尻島の道道奥尻島線沿いに位置し、海岸段丘斜面の急傾斜地で流水は少ない小溪流であるが、これまでの降雨の度に溪岸部の崩壊地から土砂が流出し溪床内に堆積している状況である。          当該地の直下には奥尻島を一週する幹線の道道がある。          今後の降雨等により不安定土砂が流出し道道に被害が及ぶ恐れがあることから、島民の民生安定のため当事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	9,135	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	1,480	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	29,012	千円
	計	30,492	千円
	分析結果（B/C）	3.34	
評価結果	<p>・必要性： 溪岸崩壊により溪流に多量の不安定土砂が堆積しており、放置すれば土砂の流出が懸念されることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 事業実施により溪床の不安定土砂が安定し、下流域の保全等が図られることから事業の有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており効率性が認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	あんもんざわ 暗門沢 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、西目屋村西部に位置し、平成17年の融雪により山腹崩壊が発生し、直下の遊歩道に崩落し被害を与えた。今後の降雨・融雪等により崩壊地が拡大するとともに崩落土砂が流出するおそれがある。</p> <p>このため、早期緑化により崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、観光施設、県道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.19ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	14,423千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,871千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	43,957千円
		計	45,828千円
	分析結果（B/C）	3.18	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	しもいどさわ 下井戸沢 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、平川市東部に位置し、豪雨等により溪岸崩壊が発生し溪床には不安定土砂等が堆積している。放置すると今後の豪雨、融雪等により不安定土砂等が下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、溪岸崩壊の拡大防止及び不安定土砂の流出を防止し、人家、農地等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	9,615千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,145千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	23,845千円
		計	24,990千円
	分析結果（B/C）	2.60	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸侵食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	かたかりいしざわ 片刈石沢 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署金木支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、中泊町小泊地区の北部に位置し、溪床に不安定土砂が堆積している状況であり、降雨の際に下流の国道・漁業施設等への被害が懸念されている。このため、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止するとともに、国道・漁業施設等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	43,269千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	5,185千円
		山地保全便益	88,786千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	93,971千円
	分析結果（B/C）	2.17	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ふくaura 福浦 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 下北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、下北郡佐井村福浦地区に位置し、地元小中学校等に隣接しているが、融雪、降雨又は強風により表土の流出、落石等がたびたび発生し、斜面直下の小中学校等に被害を及ぼしているものである。</p> <p>そのため、早期に山腹工を施工し不安定土砂流出及び落石防止を図り、直下の小中学校等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.20ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	81,339 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,846 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	202,533 千円
		計	206,379 千円
	分析結果（B/C）	2.54	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹荒廃地の状況から、放置すれば荒廃地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、山腹荒廃地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ひがしまたさわ 東又沢 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 下北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、むつ市西部に位置し、融雪・豪雨等により溪床に堆積した流木等が流出し、下流域への被害が発生している。 このため、流木等の流出による施設及び漁業等への被害を防止するため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	16,346千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,779千円
		山地保全便益	52,659千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	55,438千円
	分析結果（B/C）	3.39	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床内の状況から、放置すれば流木等が下流へ流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内の流木等の流出防止が図られ、下流域の保全及び民生の安定が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ながはま</small> 長浜 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 下北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、むつ市川内地区の西側に位置し、国道338号線に隣接しているが、平成17年の台風14号に伴う大雨により山腹崩壊が発生したものであり、今後の融雪、降雨等により崩壊地が拡大し、国道に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、早期に山腹工を施工し不安定土砂の流出防止を図り下方の国道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.05ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	4,808千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 162千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 19,871千円 計 20,033千円	
	分析結果（B/C）	4.17	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	宇樽部 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 三八上北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、十和田湖東岸部に位置し国道103号及び454号に隣接している。</p> <p>昭和61年度に土留工を施工し、不安定土砂の移動抑止及び山腹崩壊の拡大防止に努めてきたところであるが、山腹斜面の亀裂が随所に見受けられ、豪雨時等に崩壊し、民家及び国道に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊を防止するとともに下方の保全及び保安林機能の増進を図るため本事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.2ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	74,185 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,196 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	147,305 千円
		計	150,501 千円
	分析結果（B/C）	2.03	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹斜面の状況から、放置すれば山腹斜面が崩壊し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、山腹斜面の安定が図られ、水土保全機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	かしらなしさわ 頭無沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、八幡平市北部に位置し、豪雨等により溪岸が浸食され、その後の豪雨、融雪等により溪床に堆積している不安定土砂が流出し下流域に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、溪岸浸食の防止及び溪床内に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	22,115 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	6,019 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	100,441 千円
		計	106,460 千円
	分析結果（B/C）	4.81	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おおたらいさわ 大タライ沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 三陸北部森林管理署久慈支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、野田村南部に位置し、さけ・ます増殖施設等の重要な水源地となっているが、豪雨等により崩壊が発生し、今後の豪雨等により、崩壊地の拡大及び崩壊土砂が下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大の防止及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.15ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	56,953千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,139千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	116,008千円
		計	118,147千円
	分析結果（B/C）	2.07	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し堆積した不安定土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	かれまつさわ 枯松沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 三陸中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、釜石市西部に位置し、融雪及び豪雨等により溪岸浸食が進行し、溪床に堆積している不安定土砂等が流出し下流域に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、溪岸浸食の拡大の防止及び溪床に堆積している不安定土砂等の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 11基 山腹工 0.63ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	282,407千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	46,618千円
	山地保全便益	602,091千円	
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	千円	
	計	648,709千円	
	分析結果（B/C）	2.30	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂等の堆積状況や溪岸浸食等の荒廃状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂等の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おおはしきわ 大橋沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 三陸中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、釜石市西部に位置し、融雪及び豪雨等により溪岸浸食が進行し、溪床に堆積している不安定土砂が流出し下流域に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	10,577千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,557千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	49,063千円
		計	50,620千円
	分析結果（B/C）	4.79	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策 (国有林)	事業実施計画期間	平成18年度～19年度 (2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	おおびないさわ 大飛内沢 (岩手県)	事業実施主体	東北森林管理局 三陸中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、大槌町北部に位置し、下流域の重要な水源地となっているが、奥地で地形が急峻であることから豪雨等による荒廃地や荒廃森林が多く存在している。</p> <p>このため、水源地域の荒廃地等の保全対策に資するため、現地発生材を利用した工法による荒廃地の復旧と森林整備を一体に実施し、保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.02ha 森林整備 40ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	15,089 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	142,793 千円
	山地保全便益	18,879 千円	
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	千円	
	計	161,672 千円	
	分析結果 (B/C)	10.71	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 荒廃地及び荒廃森林の状況から、放置すれば荒廃の拡大及び土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、荒廃地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	くにみ 国見 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 盛岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、雫石町西部に位置し、降雨及び融雪等により山腹崩壊が発生し、放置すれば山腹崩壊の拡大及び不安定土砂が下方へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大及び表面浸食を防止し、斜面直下の温泉施設や町道の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.15 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,231 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 3,166 千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 65,997 千円 計 69,163 千円	
	分析結果（B/C）	3.60	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し、土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	きたのさわ 北の沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 盛岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、矢巾町西部に位置し、豪雨等により山腹面に多数の崩壊が生じ、その後の融雪・豪雨等により拡大傾向にあり、溪床には不安定土砂が大量に堆積しており、今後の豪雨等により下流へ流出するおそれがある。このため、山腹崩壊地の拡大及び溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の町道、林道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 5基 山腹工 1.44ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	160,828 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	23,842 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	421,266 千円
		計	445,108 千円
	分析結果（B/C）	2.77	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況及び山腹荒廃地の状況から、放置すれば荒廃の拡大及び不安定土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止及び荒廃地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>なかやまさわ</small> 中山沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、大東町北部に位置し、平成17年の豪雨により山腹斜面が崩壊した。当地区周辺は農地であり、今後の豪雨等により農地等に被害を与えるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大を防止し下方の農地等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 緑化工 0.07ha 土留工10m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	5,769千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	452千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	27,392千円
		計	27,844千円
	分析結果（B/C）	4.83	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し堆積した不安定土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	えいとくやま 永徳山 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、金ヶ崎町南部に位置し、平成17年の豪雨により山腹斜面が崩壊し下方にある町道に被害を与えた。 このため、山腹崩壊地の拡大を防止し下方の町道、農地等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.04ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	9,615 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,397 千円
	山地保全便益	40,955 千円	
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	千円	
	計	43,352 千円	
	分析結果（B/C）	4.51	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに地域住民の民生の安定が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	こうげさわ 高下沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、沢内村北部に位置し、溪床に堆積した不安定土砂が豪雨等の度に下流にある和賀岳登山道周辺に通じる林道へ流出している。 このため、溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 谷止工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,231千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,920千円
		山地保全便益	47,888千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	51,808千円
	分析結果（B/C）	2.69	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	なまづさわ 鮎沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、大館市北東部に位置し、豪雨、融雪等により山腹崩壊及び溪岸崩壊が発生し、溪床には不安定土砂が堆積し、放置すれば山腹崩壊の拡大及び不安定土砂が下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の復旧及び溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、農地、林道、県道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 0.3ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	37,722千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	6,764千円
	山地保全便益	95,905千円	
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	千円	
	計	102,669千円	
	分析結果（B/C）	2.72	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況及び溪床の不安定土砂の堆積状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、荒廃地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	はたのさわ 畑ノ沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、北秋田市南部に位置し、豪雨等による溪岸浸食が発生し、溪床には不安定土砂が堆積し、放置すれば不安定土砂が下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、農地、林道、県道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	18,269 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	5,069 千円
		山地保全便益	69,193 千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	74,262 千円
	分析結果（B/C）	4.06	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策 (国有林)	事業実施計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	おおしらいしさわ 大白石沢 (秋田県)	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、大館市北部に位置し、下流域の重要な水源地域となっているが、奥地で地形が急峻であることから豪雨等による荒廃地や荒廃森林が多く存在している。</p> <p>このため、水源地域の荒廃地等の保全対策に資するため、現地発生材を利用した工法による荒廃地の復旧と森林整備を一体に実施し、保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.1 ha 森林整備 7 ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	8,750 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	26,598 千円
		山地保全便益	千円
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	19,871 千円	
	計	46,469 千円	
	分析結果 (B/C)	5.31	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 荒廃地及び荒廃森林の状況から、放置すれば荒廃の拡大及び土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、荒廃地の復旧が図られ、水土保全機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おおふねさわ 大船沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、二ツ井町東部に位置し、豪雨等により溪岸崩壊が発生し、溪床には不安定土砂が堆積し、放置すれば溪岸崩壊の拡大及び不安定土砂が下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、農地、県道林道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	13,462千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,967千円
		山地保全便益	45,915千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	48,882千円
	分析結果（B/C）	3.63	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	なかのさわ 中ノ沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、秋田市北部に位置し、下流域の重要な水源地域となっているが、豪雨、融雪等により山腹崩壊や溪岸崩壊が発生し、放置すれば荒廃地の拡大及び不安定土砂が下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、荒廃地の復旧と市道、林道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基 山腹工 0.45ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	71,857千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 242,453千円 山地保全便益 115,341千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 千円 計 357,794千円	
	分析結果（B/C）	4.98	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 荒廃地及び溪床の不安定土砂の堆積状況から、放置すれば荒廃地の拡大及び土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、荒廃地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	かつらさわ 桂沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署湯沢支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、湯沢市東部に位置し、下流域の重要な水源地域となっているが、平成16年7月の豪雨により溪岸崩壊及び山腹崩壊が発生し、下方の県道へ土砂が流出する被害が発生した。 このため、荒廃地の復旧と県道、人家等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 10基 山腹工 0.25ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	162,540千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	173,522千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	313,649千円
		計	487,171千円
	分析結果（B/C）	3.00	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 荒廃地の状況及び不安定土砂の状況から、放置すれば荒廃の拡大及び土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、荒廃地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策 (国有林)	事業実施計画期間	平成18年度～平成20年度 (3年間)						
事業実施地区名 (都道府県名)	さわぐち 沢口 (山形県)	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署						
事業の概要・目的	<p>当地区は、大江町南西部に位置し、下流域の重要な水源地域となっているが、奥地で地形が急峻であることから豪雨等による荒廃地や荒廃森林が多く存在している。</p> <p>このため、水源地域の荒廃地等の保全対策に資するため、現地発生材を利用した工法による荒廃地の復旧と森林整備を一体に実施し、保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.10 ha</td> </tr> <tr> <td>溪間工</td> <td>1 基</td> </tr> <tr> <td>森林整備</td> <td>20 ha</td> </tr> </table>			山腹工	0.10 ha	溪間工	1 基	森林整備	20 ha
山腹工	0.10 ha								
溪間工	1 基								
森林整備	20 ha								
費用対効果分析	総費用 (C)	31,243 千円							
	総便益 (B)	水源かん養便益 84,547 千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 59,613 千円 計 144,160 千円							
	分析結果 (B/C)	4.61							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 荒廃地及び荒廃森林の状況から、放置すれば荒廃の拡大及び土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、荒廃地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>								

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	あかぐらさわ 赤倉沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、真室川町北東部に位置し、過去には集中豪雨により多大な被害を受けた地域である。現在も、豪雨等により溪岸が浸食され溪床には不安定土砂が堆積し下流域へ被害を及ぼすおそれがある。</p> <p>このため、溪岸崩壊の拡大防止及び溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、林道、町道、農地等の保全及び保安林機能の増進を目的に事業に着手する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	58,946千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	9,551千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	156,406千円
		計	165,957千円
	分析結果（B/C）	2.82	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	うらのさわ ウラノ沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、真室川町北東部に位置し、過去には集中豪雨により多大な被害を受けた地域である。現在も、豪雨等により溪岸が浸食され溪床には不安定土砂が堆積し下流域へ被害を及ぼすおそれがある。</p> <p>このため、溪岸崩壊の拡大防止及び溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、人家、町道、農地等の保全及び保安林機能の増進を目的に事業に着手する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	12,500千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,798千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	112,690千円
		計	115,488千円
	分析結果（B/C）	9.24	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	こみさわ 五味沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 置賜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、小国町北西部に位置し、平成16年7月の豪雨により、溪岸浸食が進行し、溪床には不安定土砂が堆積し下流域へ被害を及ぼすおそれがある。</p> <p>このため、溪岸浸食の拡大防止及び溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、農地、県道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	41,346千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	8,654千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	219,228千円
		計	227,882千円
	分析結果（B/C）	5.51	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から、放置すれば土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ひがしたかくら 東高倉 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 置賜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、米沢市南東部に位置し、平成16年4月の融雪期に地すべりが発生し、崩壊地には多量の不安定土砂が堆積していた。平成17年度に災害関連事業で地すべり対策を実施したが、崩壊地には不安定土砂が堆積していることから下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、表面水処理等により不安定土砂の流出を防止し、下方の市道、林道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1.33ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	43,269千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	29,912千円
		山地保全便益	291,695千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	321,607千円
	分析結果（B/C）	7.43	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地すべり崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大し堆積した不安定土砂等が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、地すべり崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	谷田川支流 <small>(やたがわしりゅう)</small> (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 福島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は郡山市関東谷田川支流に位置する。平成15年8月の集中豪雨で山腹が崩壊した箇所であり、今後の集中豪雨等により、崩壊地が拡大し近接する人家へ被害を与える恐れがあるため、崩壊地の復旧を実施し民心の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p>山腹工 0.05 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	2,404千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	637千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	26,215千円
		計	26,852千円
	分析結果(B/C)	11.17	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹崩壊地には不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、山腹崩壊地に堆積する土砂の安定が図られ水土保全機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工法を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	藤沢川(ふじさわがわ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 福島森林管理署白河支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県中通り南部で、鶴沼川支流藤沢川の左岸側崩壊地及び右岸側の小溪流に位置している。          溪床及び崩壊地には不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により流出し下流に被害を与える恐れがあることから、荒廃溪流及び山腹崩壊地の復旧を図り、保安林機能の向上と併せて民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基 山腹工 0.25 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	15,516千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	6,798千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	96,131千円
		計	102,929千円
	分析結果(B/C)	6.63	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床及び山腹崩壊地には不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床及び山腹崩壊地に堆積する土砂の安定が図られ水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的に工法を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	穴沢(あなざわ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 福島森林管理署白河支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県中通り南部で、鶴沼川支流河内川上流穴沢に位置し、溪岸及び山腹崩壊の発生により、溪床には不安定土砂が堆積しており、今後の降雨により流出し下流に被害を与える恐れがあることから、荒廃溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せて民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 2 基 山腹工 0.08 ha(2箇所)</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	29,505千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	15,273千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	87,432千円
		計	102,705千円
	分析結果(B/C)	3.48	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床及び山腹崩壊地には不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出もあること及び当該箇所下流には、人家、学校、道路、水田等の保全対象が存在することから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床及び山腹崩壊地に堆積する土砂の安定が図られ水土保全機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工法を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成20年度(3年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	二俣川(ふたまたがわ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 福島森林管理署白河支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県中通り南部で、鶴沼支流二俣川の二岐温泉に近接した箇所である。</p> <p>二俣川流域は火山堆積物を主体とした不安定な地質であり、豪雨の都度山腹斜面の崩壊により土砂が流出し、溪床には不安定土砂が堆積し、今後の降雨等により下流に被害を与える恐れがあることから、荒廃溪流及び崩壊地の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せて民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 2 基 山腹工 0.39 ha(3箇所)</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	69,143千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	82,325千円
		山地保全便益	720,584千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	802,909千円
	分析結果(B/C)	11.61	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床及び山腹崩壊地に不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出もあること過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床及び山腹崩壊地に堆積する土砂の安定が図られ水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工法を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成19年度(2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	桑袋沢(くわぶくろざわ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県大沼郡昭和村の中央部に位置している。          当該流域の下流直下に松平集落及び佐倉集落があり、平成16年の「新潟・福島豪雨」災害でも被害が発生している。計画箇所上流は溪床幅が狭く、降雨量が多いときは直上の大仏山から鉄砲水のように出水する沢であり、被害が拡大する恐れがあることから、コンクリート谷止工・フトン籠土留工・フトン籠床固工を施工し、山腹の安定と土砂の流出防止を図り民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 3 基 山腹工 0.06 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	20,900千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	2,483千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	210,559千円
		計	213,042千円
	分析結果(B/C)	10.19	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：崩壊箇所は依然として不安定な状況にある。今後の予期せぬ集中豪雨による、拡大崩壊及び崩壊土砂の流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、山脚固定による崩壊地の安定と土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保全機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度
事業実施地区名 (都道府県名)	中ノ沢(なかのさわ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県大沼郡昭和村の中央部に位置し、重要幹線である国道401号線を横断する溪流である。          計画箇所の直下には国道400号・401号、及び喰丸集落があり平成16年度の「新潟・福島豪雨」により大量の土砂が既設谷止を越えて国道に流下し、通行止めとなった。上流部には不安定土砂が多量に堆積しており、融雪時・梅雨期に再び被害を与えかねない状況となっている。          既設谷止工は満砂であり、平成18年度は既設谷止工下流にコンクリート谷止工を計画した。これにより不安定土砂の流出の防止を図り、民生の安定を図るものである。          なお、当該箇所は、県及び昭和村から強い実施要請がある。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	40,299千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	4,147千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	449,685千円
		計	453,832千円
	分析結果(B/C)	11.26	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂の堆積があり、今後の予期せぬ集中豪雨による、土砂の流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保全機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成21年度(4年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	遠京山(えんきょうざん) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県河沼郡会津坂下町の南東部に位置している。 平成14年度に災害が発生したため、会津森林管理署と会津坂下町と地元住民による協議を行ったところ、復旧対策を求める強い要望があった。 これを踏まえ、流域一帯の土砂流出防止対策について県を始めとする関係機関と調整の上、緊急の対策を図ってきたところである。 しかし、現在も山腹斜面は不安定な状態にあり、豪雨時には山腹斜面の却部が洗掘され崩壊の拡大は必至である。このため再度、被害の発生の恐れがあるところから、山腹斜面の脚部の固定と斜面緑化を施工し、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.53 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	29,969千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	12,722千円
		山地保全便益	117,731千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	130,453千円
	分析結果(B/C)	4.35	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地には不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出も見受けられる。今後の予期せぬ集中豪雨により、山腹の拡大崩壊及び不安定土砂流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂の安定と土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保全機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	氷 玉(ひだま) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県大沼郡会津美里町(旧本郷町)の東部に位置している。計画箇所の下流域には、美里町が管理する水道取水施設があり下流流域の集落へ生活用水を供給している。</p> <p>平成16年7月「新潟・福島豪雨」により、山腹崩壊が発生した。この山腹崩壊により、文化庁指定(歴史の道百選)の下野街道(会津西街道)へ崩壊土砂が流れ込み、街道が通行不能となった。</p> <p>下野街道(通称殿様街道)は、入込者も多く旧本郷町でも整備を行おうとしており、景観にも配慮した工法により早期に復旧を図る必要があることから、フトン籠土留工及び丸太法枠工等を施工し、文化財及び水道施設の保全を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.04 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	2,375千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	2,446千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	26,230千円
		計	28,676千円
	分析結果(B/C)	12.07	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊による堆積土砂は依然として不安定な状況にあり、降雨による土砂の流出も見受けられる。今後の予期せぬ集中豪雨により、山腹の拡大崩壊及び不安定土砂流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂の安定と土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保全機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成19年度(2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	仏沢(ほとけさわ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県大沼郡会津美里町(旧新鶴村)の南部に位置している。平成17年7月の局地的大雨により山腹の中腹斜面から崩壊し直下の民有地水路及び耕作地(ソバ畑)に崩落土砂が流出した。民有地所有者から再崩落防止に強い要請があり、農耕地の耕作条件を確保するため山腹堆積土砂の安定を図り再崩落の防止を図るため山腹工を実施するものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.04 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	4,714千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	1,795千円
		山地保全便益	17,673千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	19,468千円
	分析結果(B/C)	4.13	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊による堆積土砂は依然として不安定な状況にあり、降雨による土砂の流出も見受けられる。今後の予期せぬ集中豪雨により、山腹の拡大崩壊及び不安定土砂流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂の安定と土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保全機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	帝釈山(たいしゃくさん) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署南会津支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県檜枝岐村の東南部に位置し、伊南川支流舟岐川の上流部馬坂沢に当り、山腹崩壊により直下の保安林管理道に被害を及ぼしている。今後の降雨時にさらに崩壊地が拡大する恐れがあるため、早急に崩壊地の復旧を実施し、保安林機能の向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.05 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	2,788千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	1,775千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	17,487千円
		計	19,262千円
	分析結果(B/C)	6.91	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 今後の降雨により崩壊地が拡大し保安林管理道及び下流へ被害を与える恐れがあるため、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、山腹崩壊地の安定が図られ、水土保持機能の維持向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じてもっとも効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	申瘤沢（さるこぶざわ） （福島県）	事業実施主体	関東森林管理局 磐城森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県双葉郡浪江町の西部に位置し、請戸川水系高瀬川支流に当たり、溪床には上流部から流出した不安定土砂が厚く堆積しており倒木や転石が点在している。それらの流出に伴い下流域に被害が拡大する恐れがあること。また、直下には県道が近接していることから、早期に荒廃溪流の復旧を実施し、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,231千円	
	総便益（B）	6,549千円	
	山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 236,018千円 計 242,567千円		
	分析結果（B/C）	12.61	
	（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。）		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂や流木の堆積が見られ、下流域への土砂流出もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能の維持向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	碓平（ほうきだいら） （福島県）	事業実施主体	関東森林管理局 磐城森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県双葉郡広野町の北西部の2級河川浅見川の上流部に位置している。この流域の区域内には山腹崩壊地が点在するとともに溪岸崩壊等により溪床に不安定土砂が堆積しており、これらの堆積土砂の流出により下流域の保全対象に土砂災害を与える危険性があることから、不安定土砂の移動防止及び溪岸の縦横浸食を防ぎ、溪床・溪岸の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪 間 工 4 基 資材運搬路 1,460 m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	146,729千円	
	総便益（B）	17,173千円	
	水源かん養便益 山地保全便益 環境保全便益 災害防止便益 計	千円 千円 745,680千円 762,853千円	
	分析結果（B/C）	5.20	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂や流木の堆積が見られ、下流域への土砂流出もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能の維持向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	賀老 <sup>（がろう）</sup> （福島県）	事業実施主体	関東森林管理局 磐城森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県双葉郡浪江町西部の2級河川請戸川の支流上流部に位置している。この流域の区域内には山腹崩壊地が点在するとともに溪岸崩壊等の溪流荒廃が著しく、溪床に不安定土砂が堆積しており、これらの堆積土砂の流出により下流域の保全対象に土砂災害を与える危険性があることから不安定土砂の移動防止及び溪岸の縦横浸食を防ぎ、溪床・溪岸の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪 間 工 4 基 資材運搬路 780 m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	139,036千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 24,387千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 445,970千円 計 470,357千円	
	分析結果（B/C）	3.38	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂や流木の堆積が見られ、下流域への土砂流出もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能の維持向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）									
事業実施地区名 （都道府県名）	札上沢（ふだあげさわ） （福島県）	事業実施主体	関東森林管理局 磐城森林管理署									
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県いわき市の西南部で、2級河川鮫川支流の札上沢中流部に位置している。</p> <p>この流域の区域内には山腹崩壊地が点在するとともに溪岸崩壊等の溪流荒廃が著しく、溪床に不安定土砂が堆積しており、これらの堆積土砂の流出により下流域の保全対象に土砂災害を与える危険性があることから不安定土砂の移動防止及び溪岸の縦横浸食を防ぐとともに、山腹崩壊地の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>5</td> <td>基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.23</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>資材運搬路</td> <td>2,000</td> <td>m</td> </tr> </table>			溪間工	5	基	山腹工	0.23	ha	資材運搬路	2,000	m
溪間工	5	基										
山腹工	0.23	ha										
資材運搬路	2,000	m										
費用対効果分析	総費用（C）	182,183千円										
	総便益（B）	38,765千円										
	山地保全便益 環境保全便益 災害防止便益 計	千円 千円 695,862千円 734,627千円										
	分析結果（B/C）	4.03										
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂や流木の堆積が見られ、下流域への土砂流出もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能の維持向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>											

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	カナクリ沢 <small>（かなくりざわ）</small> （栃木県）	事業実施主体	関東森林管理局 日光森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、栃木県北西部鬼怒川上流部の左岸に位置し、国道121号線に近接した山腹崩壊斜面である。 山腹斜面は急峻で脆弱な地質で、豪雨により現在も崩壊が拡大していることから早急な復旧が必要である。また、崩壊地下部、国道や下流域に被害を及ぼす恐れがあるため、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.04 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	5,585千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,544千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	39,742千円
		計	41,286千円
	分析結果（B/C）	7.39	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹斜面の地質が脆弱なため、降雨のたびに崩壊地が拡大傾向にあり、下流域への土砂被害も懸念されるため、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹斜面が安定し崩壊の拡大が抑止され、水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	稲ヶ沢（いながさわ） （栃木県）	事業実施主体	関東森林管理局 日光森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、栃木県北西部に位置し、鬼怒川上流稲ヶ沢の中流に当たる。溪間工計画箇所は上流部に点在する小規模な山腹崩壊地からの崩落土砂により溪床内に多量の不安定土砂が堆積している状況にあるため、今後の豪雨により下流域への土砂流出が懸念される。山腹工計画箇所については、崩壊地下部に栃木県管理の稲ヶ沢林道が通過しており、計画箇所は斜面が急峻で脆弱な地質なため、現在も豪雨により崩壊地が拡大している状況にあることから、早期に荒廃溪流の復旧及び山腹崩壊地の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工            2 基 山腹工        0.12 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	52,093千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	49,555千円
		山地保全便益	522,710千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	572,265千円
	分析結果（B/C）	10.99	
	（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等から B/C の値が高いものとなっている。）		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪間工、溪床に不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出や崩壊地が拡大し、過去に下流域へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床及び山腹崩壊地に堆積する土砂の安定が図られ水土保全機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	上ドンビン沢 <small>(うえどんびんさわ)</small> (栃木県)	事業実施主体	関東森林管理局 日光森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、栃木県の北西部鬼怒川上流に位置し、栃木県栗山村と福島県南会津郡檜枝岐を結ぶ村道馬坂線の村道脇、山腹斜面が平成16年10月9日未明の台風22号の集中豪雨により山腹崩壊した箇所である。</p> <p>現在までは、災害関連緊急治山工事により山腹斜面の法切工及び法枠工を施工してきたが、下部林道に隣接の崩壊斜面が不安定なことから、引き続き平成18年度に於いても復旧事業を行うものである。</p> <p>また、この林道については福島南会津檜枝岐をつなぐ生活道路として重要であり、地元からも早急な復旧を強く要望を受けており、今後の降雨等により、下流域に被害をもたらす恐れがあるため、崩壊地の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工      0.13    ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	23,954千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,837千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	87,432千円
		計	91,269千円
	分析結果（B/C）	3.81	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹斜面の地質が脆弱であるため、このまま放置しておくとともに崩壊が進み、下流域へ被害をもたらす恐れがあることから、当事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹斜面が安定し崩壊の拡大が抑止され、水土保全機能が維持・向上されるとから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	ヤマナシ沢(やまなしさわ) (栃木県)	事業実施主体	関東森林管理局 塩那森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、栃木県那須塩原市の北部に位置する。この沢は大川の右岸支流である。ヤマナシ沢の上流が溪流荒廃地となっており、豪雨時には多量の不安定土砂が大川に流入する恐れがある。大川本流には既設堰堤工がいずれも満砂状態であり、荒廃溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	25,000千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	7,700千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	79,484千円
		計	87,184千円
	分析結果(B/C)	3.49	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出もみられることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能の維持向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	奈女沢 <small>(なめさわ)</small> (群馬県)	事業実施主体	関東森林管理局 利根沼田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、群馬県の北部に位置し、利根川に注ぐ奈女沢川支流で平成17年の集中豪雨で土石流が発生し溪床には多量の土砂が堆積している。 下流には上牧集落があり、今後の集中豪雨時には下流に流出する恐れがあるため土砂の流出を抑止し民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	23,077千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	1,456千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	85,484千円
		計	86,940千円
	分析結果(B/C)	3.77	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪流内には、多量の不安定土砂が堆積しており、今後の降雨量等により、下流への被害が拡大する恐れがあるため当該事業に実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、保安林の機能が十分に発揮されると共に、堆積する不安定土砂の抑止が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的効率的な工種を選定しており、効率性は求められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	大穴（おおあな） （群馬県）	事業実施主体	関東森林管理局 利根沼田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、群馬県の利根郡みなかみ町大穴地内で一級河川利根川に右岸より注ぐ小中沢の中・上流に位置し、下流域には人家及び旅館等の施設が密集している。</p> <p>平成14年7月台風6号の集中豪雨に起因する土石流により家屋7戸及び国道291号が線が被災する災害が発生した。</p> <p>平成14年度より災害関連緊急治山工事により緊急復旧対策を進めてきたところである。今後、発生源である山腹崩壊地を復旧し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.67 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	249,080千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	72,043千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	1,016,469千円
		計	1,088,512千円
	分析結果（B/C）	4.37	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 今後の集中豪雨時には、山腹崩壊地の拡大等により、下流へ再被害を与える恐れがあるため当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、保安林の機能が十分に発揮されると共に、堆積する不安定土砂の抑止が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	温川支流(ぬるかわしりゅう) (群馬県)	事業実施主体	関東森林管理局 吾妻森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は群馬県北西部に位置し、吾妻川支流の温川上流部にあたる。溪岸浸食及び山腹崩壊による流出土砂が河床に堆積し、溪岸浸食により倒伏した樹木が散在している。</p> <p>集中豪雨時にはこれらを巻き込み、溪岸浸食の拡大とともに下流域への流出土砂の影響が懸念される。このため、これらの不安定土砂等の流出防止と併せて荒廃溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	17,141千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	3,979千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	75,532千円
		計	79,511千円
	分析結果(B/C)	4.64	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：不安定土砂の流出防止と、溪岸浸食の防止を図るため当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定や、下流に位置する対象の保全、水源かん養保安林の機能維持、向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に適合した効果的・効率的な工種を採用しており、効率性は認められる</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	権現沢(ごんげんざわ) (群馬県)	事業実施主体	関東森林管理局 吾妻森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は群馬県北西部に位置し、四万川支流の権現沢流域にあたる。過去の災害により、沢筋には崩壊地や倒木が散在しており、溪床には崩壊地からの流出土砂が堆積し、下流域への流出が懸念されている。</p> <p>このため、これらの不安定土砂等の流出防止と溪岸侵食を防止するなど荒廃溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	17,413千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	9,527千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	155,095千円
		計	164,622千円
	分析結果(B/C)	9.45	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：不安定土砂の流出防止と、溪岸侵食の防止を図るため当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定、下流に位置する保全対象の保全、保健保安林の機能維持、向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に適合した効果的・効率的な工種を採用しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成22年度(5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	栢寺沢(とちでらざわ) (群馬県)	事業実施主体	関東森林管理局 吾妻森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は群馬県北西部に位置し、四万川から分岐する新湯川の右岸支流である。過去の集中豪雨等により下流域に被害があった箇所、渓流内には上流から流出した不安定土砂が堆積しており、渓岸、渓床の侵食も著しく、既設溪間工も満砂であることから、集中豪雨時の下流域への土石流の影響が懸念される。このため、渓流内の不安定土砂の流出防止と渓岸、渓床の侵食の防止等、荒廃溪流の復旧を実施し、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 5基 資材運搬路 800m</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	131,775千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	27,264千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	260,755千円
		計	288,019千円
	分析結果(B/C)	2.19	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：不安定土砂の流出防止と、渓岸侵食の防止を図るため当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、渓床に堆積する土砂の安定、下流に位置する保全対象の保全、水源かん養保安林の機能維持、向上が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に適合した効果的、効率的な工種を採用しており、効率性は認められる</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成20年度(3年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	浅草岳(あさくさだけ) (新潟県)	事業実施主体	関東森林管理局 中越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は、新潟県南東部に位置し信濃川支流破間川の上流部左岸にあたり、平成16年7月13日の集中豪雨により山腹崩壊が発生し、崩壊土砂が下流へ土石流となり流下した。</p> <p>これにより災害関連事業を実施し、上部斜面の安定と溪岸侵食の防止を図ってきたが、現在も崩壊地中腹部から下部にかけての雨水等による侵食が進んでおり今後の降雨等による被害が危惧されることから、早急に対策工事を実施し保全対象の保全及び下流域の民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工      0.18   ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	47,725千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	2,619千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	198,710千円
		計	201,329千円
	分析結果(B/C)	4.22	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹崩壊等の発生により、今後多量の不安定土砂が降雨等により流出し、下流域に被害が拡大する恐れがあるため、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、山腹法面の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	西之沢 <small>（にしのみさわ）</small> （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 中越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県南東部に位置し五十嵐川支流布倉沢の上流部右岸にあたり、平成16年7月13日の集中豪雨により山腹崩壊が発生、流出土砂は下部にある立木を巻き込みながら土石流となり西之沢を流下し、下流にある大谷ダム（保全対象）へ流入した。</p> <p>これにより災害関連事業を実施し、溪流の安定と山腹上部の拡大崩壊を防止したが、未だ崩壊地内には多量の不安定土砂が堆積している状況である。</p> <p>今後、融雪及び降雨等による土砂流出の被害が危惧されることから、早急に対策工事を実施し保全対象の保全及び下流域の民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.31 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	38,517千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	7,257千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	69,946千円
		計	77,203千円
	分析結果（B/C）	2.00	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹崩壊等の発生により、今後多量の不安定土砂が降雨等により流出し、下流域に被害が拡大する恐れがあるため、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、山腹法面の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	馬追沢（うまおいざわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 中越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県南東部に位置し五十嵐川支流大谷川上流左岸支溪の馬追沢流域にあたり、平成16年7月13日の集中豪雨により山腹崩壊が発生、流出土砂は下部にある立木を巻き込みながら土石流となり馬追沢を流下し、下流にある大谷ダム（保全対象）へ流入した。</p> <p>これにより災害関連事業を実施し、山腹上部と下部の拡大崩壊を防止したが、未だ山腹中腹部の崩壊地内には多量の不安定土砂が堆積している状況である。</p> <p>今後、融雪及び降雨等による土砂流出の被害が危惧されることから、早急に対策工事を実施し保全対象の保全及び下流域の民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.20 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	92,115千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	9,350千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	255,939千円
		計	265,289千円
	分析結果（B/C）	2.88	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊等の発生により、今後多量の不安定土砂が降雨等により流出し、下流域に被害が拡大する恐れがあるため、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹法面の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小出川（こいでがわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新発田市の北東部に位置し、坂井川支流に注いでいる小出川流域である。本流域は狭いV字谷を呈しており、溪床には不安定土砂が堆積している。今後の降雨等により、これらの堆積土砂が一気に流下し、下流域に甚大な被害を及ぼす危険性が高いため、不安定土砂の流出を抑止することと併せ民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	17,342千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	12,746千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	289,556千円
		計	302,302千円
	分析結果（B/C）	17.43	
	（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。）		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられ、過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	中砥沢（なかとざわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、胎内市の南東部に位置し、胎内川に注ぐ中砥沢の中流部である。本流域は上流部からの溪岸浸食等により、流出した土石が不安定土砂として堆積している。今後の降雨等により、それらの流出に伴い下流域に被害が拡大する恐れがあるため、荒廢溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪 間 工            2 基 資材運搬路        580 m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	63,625千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	11,751千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	175,379千円
		計	187,130千円
	分析結果（B/C）	2.94	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられ、過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ツツジ沢（つつじざわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署 村上支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県北部に位置し、単位流域湯沢の荒川に注ぐツツジ沢で、平成17年8月の局地的な豪雨により溪流が荒廃し、不安定土砂が堆積している状態となった。</p> <p>今後の集中豪雨等により流出した土砂が下流に保全対象へ被害を与えるおそれがあるので、不安定土砂の流出を防止するなどの荒廃溪流の復旧を実施し、併せて民心の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">床固工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	3,408千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,499千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	26,230千円
		計	29,729千円
	分析結果（B/C）	8.72	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 今後の降雨等により溪床の不安定土砂が下流の民有地に流出する被害を及ぼす恐れがあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床の安定が図られ、下流の民有地への被害防止が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	イタツヤ沢（いたつやざわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署 村上支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県北部に位置し、単位流域深沢の西山川に注ぐイタツヤ沢で平成16年7月の梅雨前線による集中豪雨により、山腹斜面が崩壊すると共に崩落土砂が隣接民有林に流出し、沢をせき止めたため、沢の位置が変わり林内に水が流れ込みスギ立木が枯死する被害が発生した。</p> <p>今後の集中豪雨により、下流域へ土砂が流出するとともに、民有林へ被害が拡大する恐れがあるため、早急に崩壊地の復旧を実施し、森林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工      0.01   ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	1,809千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,679千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	17,487千円
		計	19,166千円
	分析結果（B/C）	10.60	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：崩落土砂が不安定に堆積しており、今後の降雨等により、下流域への土砂の流出及び隣接民有林の被害拡大を及ぼすことから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、崩壊地の安定が図られ、下流域への土砂の流出及び民有林の被害拡大の防止が図られることから、有効性は大きいと認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小綱木沢（こつなぎざわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署 村上支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県北部に位置し、荒川（一級河川）に注ぐ沼川の支流小綱木川の中流にあたり、平成16年7月の集中豪雨により、0.13haの崩壊地が発生、崩落土砂が不安定な状態で堆積している。</p> <p>今後の降雨により堆積土砂が流出し、崩壊地が拡大する恐れがあるため、崩壊地の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.13 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	18,390千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,336千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	83,369千円
		計	84,705千円
	分析結果（B/C）	4.61	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：崩落土砂が、小綱木川付近まで不安定に堆積しており、今後の降雨等により、堆積土砂が下流域に流出し被害を及ぼす恐れがあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、崩壊地の安定が図られ、下流域への土砂の流出を防止されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小栗田沢（おぐりだざわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署 村上支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県北部に位置し、単位流域村上の三面川に注ぐ門前川の支流小栗田沢である。当該流域は溪岸侵食等の発生により多量の土砂が不安定な状態で堆積している。溪流内の既設治山ダムはいずれも満砂状態となっており、近年は降雨による増水時に多量の土砂を流出しているため、荒廃溪流の復旧を実施し保安林機能の向上と併せ民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 2 基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	55,308千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	19,156千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	493,211千円
		計	512,367千円
	分析結果（B/C）	9.26	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪流内に不安定土砂が多量に堆積しており、今後の降雨等により、下流域への土砂の流出及び県道等保全対象に被害拡大を及ぼす恐れがあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、溪床の不安定土砂の安定が図られ、下流域への土砂の流出及び保全対象への被害拡大の防止が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	杉野沢（すぎのさわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 上越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県中西部の関川支流真川の中流部に位置し、これまでの梅雨前線豪雨時等の異常出水により当該真川兩岸の溪岸が大きく侵食されたことから、下流域の市道並び林地への被害が懸念される。このため不安定土砂の流出防止を実施することにより、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工     1 基 護岸工     4 基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	346,352千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	57,048千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	803,498千円
		計	860,546千円
	分析結果（B/C）	2.48	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 真川兩岸の溪岸が大きく侵食されており、今後放置しておくこと下流の市道に大きな被害が予想されることや周辺林地への土砂等の流出が懸念され、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪岸の侵食は無くなり河川が安定され、下流の市道並びに林地への被害はなくなることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	犬麦平（いぬむぎだいら） （群馬県）	事業実施主体	関東森林管理局 吾妻森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地域は群馬県北西部に位置し、四万川支流の権現沢左岸にあたる。当該箇所は急峻な岩壁地であり、直下には宿泊施設、民家及び国道が近接しており、過去に宿泊施設が落石により被害を受け、今後も落石及び崩落等の危険があることから地元から安全対策について強い要望がある。</p> <p>このため、落石防護工を実施し、保安林機能の向上と併せ民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.10 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	33,800千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	4,507千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	232,234千円
		計	236,741千円
	分析結果（B/C）	7.00	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 崩落危険斜面の防護対策を図るため当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、崩落危険斜面の安定と直下の保全対象の保全、土砂崩壊防備保安林、保健保安林の機能維持、向上が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に適合した効果的、効率的な工種を採用しており、効率性は認められる</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	限界状態設計法等実証（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	矢川 <sup>（やがわ）</sup> （群馬県）	事業実施主体	関東森林管理局 群馬森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、群馬県最西端部に位置し、鏑川支流矢川の上流部に当たり、山腹崩壊等の発生により溪床には多量の不安定土砂や流木が堆積している地区である。今後降雨等により、それらの流出に伴い下流域に被害が拡大する恐れがあるため、早期に荒廃溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>なお、当該箇所における限界状態設計法等実証事業については、今後の治山施設の性能設計化へ向けての実証事業である。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 2 基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	48,267千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	11,327千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	309,357千円
		計	320,684千円
	分析結果（B/C）	6.64	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には多量の不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられること及び過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	水源流域広域保全（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	摺上川（すりかみがわ） （福島県）	事業実施主体	関東森林管理局 福島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該事業は福島市内11町の水ガメである摺上川ダム上流の荒廃地の復旧、土砂流出の防止及び森林整備を行い、水源涵養機能、国土保全機能等、保安林機能の向上と併せて民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">           溪間工 14 基            山腹工 0.81 ha            森林整備 360 ha         </p>		
費用対効果分析	総費用（C）	522,767千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,787,756千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	7,658,291千円
		計	10,446,047千円
	分析結果（B/C）	19.98	
	（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。）		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には多量の不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられること及び過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	ワラビ窪(わらびくぼ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は福島県大沼郡昭和村の東部に位置し100haに及ぶ保安林内である。当該箇所は、建設機械等の搬入が地形的に困難な箇所、これまでも小崩壊が発生しているが復旧対策遅れている地区である。</p> <p>当該箇所は森林の公益的機能の発揮に向けて、本数調整伐、中丸太積土留工、丸太積土留工、丸太筋工、丸太法枠工、植生ネット伏工など簡易な工法を採用し、保安林整備を図り保安林機能の維持向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">山腹工 0.02 ha 本数調整伐 20.00 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	9,615千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	93,330千円
		山地保全便益	89,640千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	182,970千円
	分析結果(B/C)	19.03	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊による堆積土砂は依然として不安定な状況にあり、降雨による土砂の流出も見受けられる。今後の予期せぬ集中豪雨により、山腹の拡大崩壊及び不安定土砂流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂の安定と土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保全機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)						
事業実施地区名 (都道府県名)	不動沢(ふどうさわ) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署						
事業の概要・目的	<p>当該箇所は福島県大沼郡昭和村の東部に位置しており70haに及ぶ保安林内である。          当該箇所は建設機械等の搬入が地形的に困難な箇所で、これまでも小崩壊が発生しているが復旧対策が遅れている地区である。          当該箇所は森林の公益的機能の発揮に向けて、本数調整伐、中丸太積土留工、丸太積土留工、丸太筋工、丸太法枠工、植生ネット伏工など簡易な工法を採用し、保安林整備を図り保安林機能の維持向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.03</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>本数調整伐</td> <td>20.00</td> <td>ha</td> </tr> </table>			山腹工	0.03	ha	本数調整伐	20.00	ha
山腹工	0.03	ha							
本数調整伐	20.00	ha							
費用対効果分析	総費用(C)	10,096千円							
	総便益(B)	水源かん養便益	84,064千円						
		山地保全便益	80,705千円						
		環境保全便益	千円						
		災害防止便益	千円						
		計	164,769千円						
	分析結果(B/C)	16.32							
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)								
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊による堆積土砂は依然として不安定な状況にあり、降雨による土砂の流出も見受けられる。今後の予期せぬ集中豪雨により、山腹の拡大崩壊及び不安定土砂流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂の安定と土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>								

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	大川原(おおかわら) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 磐城森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は2級河川熊川流域の源として重要な位置にあり水源かん養保安林に指定されており、これらの地域から流出する土砂や流木等は流域全体に影響を及ぼすものである。</p> <p>当該地区は適切な森林整備・保全が遅れており、保安林機能を高める対策が早急に必要であることから、簡易かつ効果的な治山施設の整備と針広混交林等への再生のため森林整備を実施し荒廃森林の復旧を併せて図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">山腹工 0.1 ha 本数調整伐 11.8 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	9,615千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	139,897千円
		山地保全便益	87,580千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	227,477千円
	分析結果(B/C)	23.66	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 保安林機能を高めるため、山腹崩壊地及び荒廃森林に対して簡易かつ効率的治山施設と森林整備を一体的に行うことにより保安林機能を高め流域保全が図られることから当事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、土砂の流出等の抑止が図られ、森林整備の実施により健全な森林造成が図れることから、流域全体にわたる水源かん養機能や土砂流出防止機能の高度発揮に資するものであり、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策(国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	猿 畑(さるはた) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 磐城森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、双葉郡楢葉町の南西部に位置する、木戸川上流部に当たり山腹崩壊等の発生により、多量の不安定土砂が今後の降雨等により流出し、それに伴い下流域に被害が拡大する恐れがあるため、山腹崩壊の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.1 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	9,615千円	
	総便益(B)	18,413千円	
	水源かん養便益 山地保全便益 環境保全便益 災害防止便益 計	千円 千円 39,749千円 58,162千円	
評価結果	<p>分析結果(B/C) 6.05</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊等の発生により、今後多量の不安定土砂が降雨等により流出し、下流域に被害が拡大する恐れがあるため、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹法面の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	高榑川上流 <small>（たかならがわじょうりゅう）</small> （群馬県）	事業実施主体	関東森林管理局 群馬森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、群馬県東部に位置する、高榑川の支流に当たり、集中豪雨等の影響により山腹崩壊地が発生したもので、山腹には不安定土砂等が堆積している。今後降雨等により、それらの流出に伴い下流域に被害が拡大する恐れがあるため、早期に荒廢地の復旧及び森林整備を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山 腹 工      0.1 ha 本数調整伐    20.0 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	9,615千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	75,918千円
		山地保全便益	76,955千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	152,873千円
	分析結果（B/C）	15.90	
	（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等から B/C の値が高いものとなっている。）		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊の発生により、不安定土砂の堆積があり、今後多量の降雨により流出し下流へ被害が拡大する恐れがあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	地王堂沢（じおうどうさわ） （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 中越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、湯沢町南東部を流れる一級河川「地王堂沢」上流部に位置し、現在までに他官庁の既設ダムを含め十数基の溪間工が配備されている。</p> <p>しかし、どれもが満砂状態であり、河川内にはいまだ多量の不安定土砂が堆積している状況である。また、上流部の山腹崩壊地からは現在も融雪等の影響で土砂生産が続いていて下流域へ流出していることから、早急に復旧する必要がある。</p> <p>また、上流域に広がる森林は保安林であると同時に下流「二居地区」の重要な水源地帯であることから、森林整備事業により健全な森林を造成し、災害に強い森林・水源機能の高い森林への移行を図る。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">山腹工 1.69 ha 本数調整伐 99.07 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	76,021千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	26,657千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	166,917千円
		計	193,574千円
	分析結果（B/C）	2.55	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊等の発生により、今後多量の不安定土砂が降雨等により流出し、下流域に被害が拡大する恐れがあるため、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹法面の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	猿川（さるかわ） （群馬県）	事業実施主体	関東森林管理局 群馬森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、群馬県東部に位置し、渡良瀬川水系の上流、一級河川（河口川）支流猿川流域に当たり、平成14年台風6号及び21号の集中豪雨によって発生した、山腹崩壊及び溪岸浸食により多量の不安定土砂が流下し、溪床には多量の不安定土砂や流木が堆積した。今後の降雨等により、これら崩壊地の拡大及び不安定土砂の土石流化による下流域へのさらなる被害が拡大する恐れがあるため、民有林と国有林が一体となって早期に荒廃溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">溪間工 8.0 基 山腹工 1.8 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	416,511千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	133,024千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	574,652千円
		計	707,676千円
	分析結果（B/C）	1.70	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に多量の不安定土砂が堆積しており、現在も降雨による土砂の流出がみられることや過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹斜面及び溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	赤沢谷（あかさわたに） （埼玉県）	事業実施主体	関東森林管理局 埼玉森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当該地区は、平成16年10月に襲来した台風22号の影響を受け山腹崩壊が発生し、直下の林道及び沢沿いにある漁協管理の釣り場に被害を及ぼした箇所である。</p> <p>崩壊斜面は不安定な状態となっており、今後の豪雨等により崩壊面が拡大し崩落土砂が流出する恐れがあり、下流保全対象へ被害を及ぼす恐れがあることから、山腹崩壊地の拡大防止を図り土砂発生源を緑化復旧するものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工 0.04 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	12,500千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,544千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	43,716千円
		計	45,260千円
	分析結果（B/C）	3.62	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 崩壊斜面は不安定な状態となっており、降雨による土砂の流出もみられる。 過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹崩壊の復旧が図られ、水源かん養機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成22年度(5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	狩野川 (かのがわ) (静岡県)	事業実施主体	関東森林管理局 伊豆森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地は、平成16年10月に襲来した台風22号の影響を受け山腹崩壊が発生した箇所である。          溪床には多量の不安定土砂が堆積しており今後の豪雨等により下流部へ流出する恐れがあり、下流保全対象へ被害を及ぼす恐れがあることから、溪間工を計画し不安定土砂の移動の抑止と併せ、山腹崩壊地の拡大防止を図り土砂発生源を緑化復旧するためものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">溪間工            4 基          山腹工           0.83 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	195,315千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	67,246千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	972,939千円
		計	1,040,185千円
	分析結果(B/C)	5.33	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられる。 過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定及び山腹崩壊の復旧が図られ、水源かん養機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成21年度(4年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	白田川(しらたがわ) (静岡県)	事業実施主体	関東森林管理局 伊豆森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地は、平成15年7月の集中豪雨の影響を受け、山腹崩壊が発生し溪流全体に不安定土砂が堆積している状況である。また、豪雨により奈良本林道に多量の土石が流出し林道及び林地被害が発生した箇所である。</p> <p>溪床には多量の不安定土砂が堆積しており今後の豪雨等により下流部へ流出する恐れがあり、下流保全対象へ被害を及ぼす恐れがあることから、溪間工を計画し不安定土砂の移動を抑止し、山腹崩壊地の拡大防止を図り土砂発生源を緑化復旧するものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">溪間工 6 基 山腹工 0.66 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	164,194千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	61,061千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	823,000千円
		計	884,061千円
	分析結果(B/C)	5.38	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられる。 過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定及び山腹崩壊の復旧が図られ、水源かん養機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	森林水環境総合整備(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成20年度(3年間)									
事業実施地区名 (都道府県名)	泉(いずみ) (静岡県)	事業実施主体	関東森林管理局 伊豆森林管理署									
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、静岡県の伊豆半島を東西に分ける分水嶺である、十国峠から熱海峠へと南に延びる稜線の東側で、千歳川の上流右岸側に位置する。</p> <p>森林の現況は、スギ・ヒノキの人工林が93%を占めており成長は良好であるが、森林荒廃が進行している。また、台風や豪雨等の影響により、山腹崩壊や風倒による森林被害により荒廃が拡大し、水源かん養機能の低下とともに崩壊地や荒廃森林からの土砂流出により下流の保全対象に被害を与える恐れがある。</p> <p>下流にある給水施設は、泉地区の熱海市水道の水源で、この施設に強く依存している状況である。したがって、安定した良質な水源の恒久的な確保に資するために、治山施設の整備及び荒廃森林の整備を行い、水源かん養機能の維持向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>2</td> <td>基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>1.51</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>森林整備</td> <td>146.51</td> <td>ha</td> </tr> </table>			溪間工	2	基	山腹工	1.51	ha	森林整備	146.51	ha
溪間工	2	基										
山腹工	1.51	ha										
森林整備	146.51	ha										
費用対効果分析	総費用(C)	151,535千円										
	総便益(B)	水源かん養便益	56,019千円									
		山地保全便益	千円									
		環境保全便益	千円									
		災害防止便益	1,269,303千円									
		計	1,325,322千円									
	分析結果(B/C)	8.75										
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられ、森林荒廃が進行している。 過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定及び山腹崩壊の復旧が図られ、荒廃森林の整備が図られ、水源かん養機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>											

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成19年度(2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	柳沢支流(やなぎさわしりゅう) (福島県)	事業実施主体	関東森林管理局 会津森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県大沼郡昭和村を流れる柳沢の支流に位置している。これまでの集中豪雨等により当該箇所の山腹が崩壊し、崩壊土砂が直下の柳沢支流を流下し下流を通過している村道に流れ込み、通行止めなるなどの被害をもたらしている。</p> <p>現在も山腹崩壊地が拡大する傾向にあるため、今後の集中豪雨等により崩壊土砂が流出し、下流域へ再度被害を与える恐れがある。</p> <p>このことから、山腹崩壊地の復旧と溪流内に堆積している不安定土砂の流出防止を図ることにより、保安林機能の向上と併せて民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: right;">溪間工            2 基 山腹工           0.01 ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	28,575千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	6,844千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	158,047千円
		計	164,891千円
	分析結果(B/C)	5.77	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 崩壊箇所は依然として不安定な状況にある。今後の予期せぬ集中豪雨による、拡大崩壊及び崩壊土砂の流出の恐れがあり、再度下流域に被害を及ぼさないためにも、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の安定と土砂流出の防止が図られ、国土保全及び水土保全機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成19年度(2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	安野川支流(あんのがわしりゅう) (新潟県)	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、阿賀野市の北東部にあたり、阿賀野川へ注ぐ安野川の支流に位置している。          当該箇所の溪床には、上流部の山腹崩壊による不安定土砂が堆積している。          今後の集中豪雨等により、これらの堆積土砂が一気に有害土砂として流下し、下流域に被害が拡大する恐れがあるため、不安定土砂の流出と併せて荒廢溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪 間 工 1 基 資材運搬路 335 m</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	43,121千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	13,096千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	334,067千円
		計	347,163千円
	分析結果(B/C)	8.05	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床には不安定土砂が堆積しており、降雨による土砂の流出もみられるとともに、過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的・効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～27年度（10年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	松尾谷（まつおだに） （富山県）	事業実施主体	中部森林管理局 富山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、富山県中新川郡立山町の南部、かつての立山火山の浸食カルデラ内に位置し、火山性の脆弱な地質構造に加えて豪雪地域のため荒廃が進み、崩壊地が広く分布している。昭和30年代から治山事業が進められていたが、昭和44年8月の集中豪雨により、土石流が発生する等大規模な災害が発生した。この災害により現地へのアクセスが困難となっていたが、下流部から国土交通省の砂防事業が進捗し、最近になり国有林へのアクセスが可能な状況となった。</p> <p>このため、国土交通省の砂防事業との連携を図りつつ、山脚の固定と溪流内の不安定土砂の流出を防止し、千寿ヶ原地区等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容  溪間工 15基（新設9基 補修6基）  資材運搬路 1,000m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	735,919（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	33,593（千円）	
	災害防止便益	4,351,612（千円）	
	計	4,385,205（千円）	
	分析結果（B/C）	5.96	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 過去に大きな災害が発生した箇所であり、荒廃の規模も大きく放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸崩壊の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小屋崎谷（こやさきだに） （富山県）	事業実施主体	中部森林管理局 富山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、富山県南砺市の南西部に位置し、小矢部川の源流となる最上流域である。地質は白亜紀～古第三紀の酸性火山岩類等から構成され風化が進んでいる。平成16年9月の台風21号にともなう集中豪雨により新生崩壊が発生し、崩壊土砂が溪流に流出した。崩壊地は現在も雪崩、降雨の度に拡大浸食を続けており、溪流内に不安定土砂の堆積が進み濁水が発生するなど下流に影響を及ぼしている。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大にともなう土砂の流出を防止し、刀利ダム等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p style="text-align: center;">主な事業内容 山腹工 0.22ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	69,808（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	3,829（千円）	
	災害防止便益	214,607（千円）	
	計	218,436（千円）	
	分析結果（B/C）	3.13	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 現在も崩壊地の拡大が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地が拡大し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小沢川（おざわがわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 伊那谷総合治山事業所
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県飯田市の東部（旧上村の北部）に位置し、程野地区の重要な水源地域となっている。地質は主に三波川帯の蛇紋岩類で、急涯地形に加えて戸台構造線等断層が入り組んだ複雑な地質構造となっており、凍結、融解等の寒冷作用に加えて局所的な集中豪雨によって崩壊地の拡大、地表面の浸食が進行している。平成12年8月の集中豪雨及び平成16年8月の台風15号による集中豪雨によって土砂等が水道施設に流入し濁水等の被害が発生した。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大及び表面浸食による土砂の流出を防止し、程野地区等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 1.03ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	121,344（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	5,295（千円）	
	災害防止便益	713,051（千円）	
	計	718,346（千円）	
	分析結果（B/C）	5.92	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：地質的に脆弱な地域で荒廃が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	園原川（そのはらがわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 伊那谷総合治山事業所
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県下伊那郡阿智村の西端部に位置し、中央アルプス恵那山を源とする園原川上流部の高山地帯である。急峻な地形と流紋岩類・花崗岩類等から構成される脆弱な地質構造のため、荒廃が進み土砂生産が著しい。平成15年10月の秋雨前線にともなう集中豪雨で山腹崩壊が進行し溪床浸食を伴って土石流が発生し林道決壊が相次ぐ災害が発生した。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、園原地区等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基 山腹工 1.79ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	255,758（千円）	
	総便益（B）	水源かん養便益	35,690（千円）
		災害防止便益	502,440（千円）
		計	538,130（千円）
	分析結果（B/C）	2.10	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：地質的に脆弱な地域で荒廃が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	馬曲川2（まぐせがわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 北信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県下高井郡木島平村東部に位置し、浸食が進んだ壮年期の急峻な地形を呈している。豪雪地帯であり、融雪期に発生する地下水型の大規模な崩壊地や雪崩等の表面浸食による比較的規模の小さい崩壊地が点在し、土砂の生産量が多い地区である。平成15年5月の融雪災害により、大規模な地すべり性崩壊が発生し、崩壊土砂は千曲川との合流付近まで達した。崩壊地内と溪床内に多量の不安定土砂が堆積したため、平成16年度に災害関連緊急治山事業により溪間工及び山腹工を施工したところであるが、現在も下流の溪床内には相当量の不安定土砂が堆積しており、このまま放置すると今後の降雨時に流出し下流に被害を与える恐れが高まっている。</p> <p>このため、山脚の固定と不安定に堆積している土砂の流出を防止し、馬曲・平沢地区等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	95,044（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	19,035（千円）	
	災害防止便益	662,877（千円）	
	計	681,912（千円）	
	分析結果（B/C）	7.17	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：平成15年に大きな災害が発生した箇所であり、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸崩壊の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成23年度（6年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	保科山（ほしなやま） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 北信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県長野市南東部に位置し、地域一帯は浸食が進んだ壮年期地形であり急峻で大小の崩壊地が数多く点在し土砂の生産量も多い地区である。平成14年6月の梅雨前線豪雨、平成16年10月の台風に伴う集中豪雨により、村松沢支流及びゴロコバ沢において相次いで新生崩壊が発生し、崩壊土砂が下流に流出し溪床内に不安定な形で大量に堆積するとともに、その一部が県道に流出する被害が発生した。このまま放置すると、今後の降雨時等の際に流出し下流に被害を与える恐れが高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、県道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 10基 山腹工 0.80ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	267,760（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	73,413（千円）	
	災害防止便益	794,841（千円）	
	計	868,254（千円）	
	分析結果（B/C）	3.24	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地区内には県道長野菅平線が通っており通行量も多く、不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	掛札川（かけふだがわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 北信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県長野市戸隠の戸隠連峰西岳の南東斜面に位置し、鋭い尾根と断崖絶壁の急斜面からなる浸食が進んだ満壮年期地形を呈している。地質は第三紀層の凝灰角礫岩等で構成され、特殊崩壊地や溪岸崩壊地が点在する等荒廃が進んでいる。豪雨・融雪の際には土砂の生産が著しく、流出土砂により当地区内に設置されている旧鬼無里村営簡易水道取入施設が度々被害を受ける状況にある。この施設は旧村内東部地域の水道水源として利用されているが、他に取水できる水源が無いため、地域住民の生活に欠くことの出来ない重要な施設である。このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、水道施設等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,779（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	2,685（千円）	
	災害防止便益	78,248（千円）	
	計	80,933（千円）	
	分析結果（B/C）	4.09	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：重要な保全対象である水道施設があり、不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸崩壊の拡大や土石流の発生により被害を与える恐れが高く、地元からも復旧を要望されている。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	大白川（I） （おおしらかわ） 長野県	事業実施主体	中部森林管理局 中信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県松本市安曇地区に位置し、地区一帯は松本市街地と上高地地区の中間に位置する。地質は風化作用の進んだ黒雲母花崗岩類で構成され、脆弱で集中豪雨等の際に上流からの土砂礫が流下し溪床内への堆積が進んでいる。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により土石流が発生し、沢沿いの大白川林道が決壊して通行止めとなる被害が発生した。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容： 溪間工 3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	47,152（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	23,210（千円）	
	災害防止便益	261,980（千円）	
	計	285,190（千円）	
	分析結果（B/C）	6.05	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸浸食の進行などで溪床に不安定な土砂堆積がみられ、土砂の流下により下流の林道に被害が発生しており、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し、被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂を固定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成21年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	浦川（IV）（うらかわ） 長野県	事業実施主体	中部森林管理局 中信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県北安曇郡小谷村西部に位置し、地質は安山岩類や火山灰及び火山砕屑物等から構成され、糸魚川－静岡構造線等の断層の影響を受け脆弱である。上流には稗田山の大崩壊地があり土砂生産が多く、頻繁に土石流が発生する等、非常に荒廃が進んでいる地域である。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により土石流が発生し、村道の路肩が決壊する等の被害が発生した。このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、村道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容： 溪間工 5基 山腹工 0.10ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	108,897（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	21,843（千円）	
	災害防止便益	333,220（千円）	
	計	355,063（千円）	
	分析結果（B/C）	3.26	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地質的に脆弱な地域で荒廃が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	白水沢（しらみずさわ） 長野県	事業実施主体	中部森林管理局 中信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県安曇野市穂高の西部に位置し、地質は風化作用の進んだ黒雲母花崗岩類等で構成されて、脆弱で荒廃が進んでいる。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により、土石流や山腹崩壊が発生し、県道槍ヶ岳・矢村線に土砂が押し出し通行止めとなり、上流域にある中房温泉の観光客が一時取り残される等の災害が発生した。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、県道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	62,492（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	35,501（千円）	
	災害防止便益	172,430（千円）	
	計	207,931（千円）	
	分析結果（B/C）	3.33	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂等の状況から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	合戦沢（がっせんさわ） 長野県	事業実施主体	中部森林管理局 中信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県安曇野市穂高の西部に位置し、北アルプス表銀座の登山口として入り込み者の多い地区である。地質は風化作用の進んだ黒雲母花崗岩類等で構成され、脆弱で荒廃が進んでいる。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨等により、崩壊地が拡大崩壊する等により溪床には不安定土砂の堆積が進んでいる。このまま放置すると直下にある中房温泉に被害を与える危険が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、温泉施設等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工5基 山腹工0.35ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	197,366（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	15,890（千円）	
	災害防止便益	464,086（千円）	
	計	479,976（千円）	
	分析結果（B/C）	2.43	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：直下に温泉施設があり、また登山口として年間を通して入込者が多く、崩壊地の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	黒川上流（I） （くろかわじょうりゅう） 長野県	事業実施主体	中部森林管理局 中信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県松本市奈川地区に位置し、地区一帯は乗鞍岳などに囲まれている。地質は古生層の粘板岩等が主体で、乗鞍・焼岳火山噴出物や安山岩などがこれを被覆している。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により、土石流が発生し、奈川・黒川林道などに土砂が流出し通行止めとなる被害が発生した。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、併用林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,231（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養防止便益	11,622（千円）	
	災害防止便益	64,072（千円）	
	計	75,694（千円）	
	分析結果（B/C）	3.94	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	茶臼山（ちやうすやま） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 東信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県小県郡長和町の西側に位置し、美ヶ原高原の南東斜面に広がる地区である。ほぼ全域が国定公園に指定され、地区内には県道やビーナスラインが走っていることから、山岳景観を求めドライブ、ハイキング等に多くの人が訪れている。平成16年9月の秋雨前線にともなう局地的な集中豪雨により、山腹崩壊が発生し土石流となって流下し、下流のビーナスラインへ土砂が押し出し通行止めとなる被害が発生した。このため、災害関連緊急治山事業により溪間工を実施し復旧を図ったところであるが、溪床内には依然として不安定土砂が多く堆積し、再び下流域に被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、県道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	22,115（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	2,778（千円）	
	災害防止便益	31,794（千円）	
	計	34,572（千円）	
	分析結果（B/C）	1.56	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：平成16年に大きな災害が発生した箇所であり、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸崩壊の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、不安定土砂が安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成21年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	半過山1（はんかやま） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 東信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県上田市の北西に位置し、三ッ頭山、城山の東斜面に広がる地区で、下流直下には県道や集落、農地等があり重要な保全対象に近接した地区である。地質はひん岩、泥岩・砂岩・礫岩、凝灰岩等で構成され脆弱で風化が進んでいる。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により、山腹崩壊が発生、溪岸浸食を引き起こし土石流となって流下し、下流の田畑等に多量の土砂が流出する被害が発生した。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、県道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 7基 山腹工 0.15ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	67,707（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	11,333（千円）	
	災害防止便益	362,624（千円）	
	計	373,957（千円）	
	分析結果（B/C）	5.52	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 重要な保全対象に近接しており、不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	所産沢（ところぼさわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 東信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県小県郡真田町の北西部に位置し、地質は火山砕屑岩類で構成され溪岸浸食が進んでいる。地区内には県道長野真田線が縦断するなど、重要な保全対象に近接した区域である。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により土石流が発生し、直下を通る県道を決壊させる被害が発生した。溪床内には、大量の不安定土砂が堆積しており、放置すれば豪雨時には再び土石流となって流下し、下流域に被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、県道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	11,538（千円）	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,988（千円）
		災害防止便益	57,888（千円）
		計	59,876（千円）
	分析結果（B/C）	5.19	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	和熊川（わくまがわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 東信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県小県郡真田町の東部に位置し、群馬県境に接する湯ノ丸山と鳥居峠を結ぶ稜線の西斜面に展開する地区である。地質は火山砕屑岩類で構成され山腹崩壊や溪岸浸食が発生する等荒廃が進んでいる。下流には大日向集落や国道144号線が通る等、重要な保全対象に近接した区域である。平成13年9月の台風15号や平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨等により崩壊地の拡大崩壊や土石流の発生による溪岸荒廃が進み、溪床には不安定な状態で土砂が堆積しており、放置すれば集中豪雨により流出し下流域に被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 7基 山腹工 0.28ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	144,313（千円）	
	総便益（B）	水源かん養便益	36,322（千円）
		国土保全便益	473,095（千円）
		計	509,417（千円）
	分析結果（B/C）	3.53	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成27年度（10年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	笹ヶ平1（ささがたいら） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 南信森林管理署						
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県上伊那郡長谷村の北部に位置している。中央構造線東側の戸台構造線沿いに位置するため、破砕作用を受けた脆弱な地質構造であり、山腹崩壊や溪岸浸食等の荒廃が進んでいる。平成17年7月の梅雨前線にともなう豪雨により崩壊地が拡大するとともに溪床内には不安定土砂の堆積が進んだ。このまま放置するとさらなる拡大崩壊や土石流等の発生により下流域に被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、併用林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>溪間工</td> <td>4基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>2.84 h a</td> </tr> <tr> <td>運搬路</td> <td>150m</td> </tr> </table>			溪間工	4基	山腹工	2.84 h a	運搬路	150m
溪間工	4基								
山腹工	2.84 h a								
運搬路	150m								
費用対効果分析	総費用（C）	308,739（千円）							
	総便益（B）								
	水源かん養便益	43,819（千円）							
	災害防止便益	435,573（千円）							
	計	479,392（千円）							
	分析結果（B/C）	1.55							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：地質的に脆弱な地域で荒廃が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>								

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	西風巻谷1（にしかざまきたに） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 南信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、長野県上伊那郡長谷村の南部に位置し、戸台、仏像の両構造線の間挟まれ、破碎作用を受けた複雑かつ脆弱な地質構造であり、山腹崩壊や溪岸浸食等荒廃が進んでいる。平成17年7月の梅雨前線による豪雨等により、溪岸浸食による荒廃が拡大し、流出土砂が不安定な状態で溪流内に堆積した。このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、併用林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	38,462（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	22,905（千円）	
	災害防止便益	234,718（千円）	
	計	257,623（千円）	
	分析結果（B/C）	6.70	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	東谷（ひがしたに） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 南信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県上伊那郡長谷村の北部に位置している。中央構造線東側の戸台構造線沿いに位置するため、破碎作用を受けた脆弱な地質構造であり、山腹崩壊や溪岸浸食等の荒廃が進んでいる。平成17年7月の梅雨前線にともなう豪雨により崩壊地が拡大するとともに溪床内には不安定土砂の堆積が進んだ。このまま放置するとさらなる拡大崩壊や土石流等の発生により下流域に被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、併用林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 0.85 h a</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	206,919（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	31,289（千円）	
	災害防止便益	435,573（千円）	
	計	466,862（千円）	
	分析結果（B/C）	2.26	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地質的に脆弱な地域で荒廃が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成24年度（7年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	奈良井16（ならい） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県塩尻市の南部、信濃川水系・奈良井川の最上流に位置している。地質は花崗岩類、変成岩類で構成され、地形は急峻であるが、安定している地区であった。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により新たな山腹崩壊が発生し土砂が流出し、木曾谷から分水嶺を越えて伊那谷に灌漑用水を供給していた「木曾山用水」の施設を損壊させるとともに、奈良井林道を寸断させる等の被害が発生した。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、農業用水施設等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 12基 山腹工 0.23ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	213,415（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	42,586（千円）	
	国土保全便益	543,294（千円）	
	計	585,880（千円）	
	分析結果（B/C）	2.75	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 下流の木曾山用水等の保全に対する要望が強く、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成27年度（10年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	小木曾20（おぎそ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県木曾郡木祖村の北部、木曾川の源流ともなる味噌川の最上流に位置している。地質は、中・古生層の粘板岩、砂岩、泥岩等で構成され、砂岩と泥岩が互層をなしている等、脆弱な地質であり荒廃が進んでいる。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により新たな山腹崩壊が発生し、下流に被害はなかったものの河床には流出土砂が不安定な状態で堆積が進んだ。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工6基 山腹工0.91ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	263,630（千円）	
	総便益（B）	水源かん養便益	96,041（千円）
		国土保全便益	738,909（千円）
		計	834,950（千円）
	分析結果（B/C）	3.17	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：地質的に脆弱な地域で荒廃が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成23年度（6年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	伝上川（でんじょうがわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県木曾郡王滝村の北西部に位置し、昭和59年9月の長野県西部地震の際に大規模な崩壊と土石流が発生し被災した箇所である。平成15年度までに隣接する濁川地区や中下流部は復旧が図られてきたが、上流部にはまだ不安定な残留土砂が多量に堆積している。このまま放置すると拡大崩壊や土石流等の発生により下流域に被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、村道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基 護岸工 697m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	238,830（千円）	
	総便益（B）	水源かん養便益	25,866（千円）
		災害防止便益	277,558（千円）
		計	303,424（千円）
	分析結果（B/C）	1.27	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 過去に大きな災害が発生した箇所であり、荒廃の規模も大きく、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸崩壊の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高く、地元からも復旧を要望されている。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	駒ヶ岳10（こまがたけ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県木曾郡上松町の東部、中央アルプスの西側斜面に位置しており、急峻で狭隘なV字谷を形成している。地質は、風化作用を受けた花崗岩や粘板岩から構成されているため脆弱で荒廃が進み土砂の生産が多く、不安定土砂の堆積が進んでいる。平成15年4月の融雪にともない土石流が発生し、多量の土砂が下流の農業用水施設に流入する被害が発生した。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、東野集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	85,836（千円）	
	総便益（B）	水源かん養便益	26,276（千円）
		災害防止便益	339,715（千円）
		計	365,991（千円）
	分析結果（B/C）	4.26	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	柿其11（かきぞれ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署 南木曾支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県木曾郡南木曾町の西部に位置し、地質は濃飛流紋岩類で構成され、節理が発達し脆弱なため、崩壊が多く発生する等荒廃が進んでいる。平成15年の台風10号により、ナメリ沢林道上流部において新生崩壊が発生し、崩落土砂が土石流となって流下し、下流のナメリ沢林道が決壊する被害が発生した。現在も溪床内には不安定土砂が多量に堆積している。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,231（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	17,657（千円）	
	災害防止便益	21,779（千円）	
	計	39,436（千円）	
	分析結果（B/C）	2.05	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	阿寺15（あでら） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署 南木曾支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県木曾郡大桑村の西部に位置し、地質は濃飛流紋岩類で構成され、節理が発達し脆弱なため、崩壊が多く発生する等荒廃が進んでいる。平成11年の梅雨前線にともなう集中豪雨では、土石流が発生し樽ヶ沢林道を決壊させる被害が発生した。また、その後平成15年7月の梅雨前線豪雨、平成16年8月の台風にもなう集中豪雨の際に土石流が発生し、被害はなかったものの溪床内には多量の土砂が不安定な状態で堆積が進み、今後の豪雨等により再度流出し下流域に被害を及ぼす危険性が高まっている。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	34,615（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	16,638（千円）	
	災害防止便益	100,182（千円）	
	計	116,820（千円）	
	分析結果（B/C）	3.37	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	南蘭15（みなみあらぎ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署 南木曾支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県木曾郡南木曾町の南部に位置し、地質は風化の進んだ粗粒な花崗岩類で構成され非常に脆弱である。木曾山地の急峻な地形等による局地的な豪雨が多発しやすい地区であり、荒廃が進んでいる。平成15・16年の梅雨前線や度重なる台風にもなう集中豪雨により崩壊地の発生や溪岸荒廃が進行し、流出した土砂は溪床内に多量の不安定土砂となって堆積しており、下流域へ流下する恐れが年々高まっている。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主要な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	49,889（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	8,433（千円）	
	災害防止便益	89,292（千円）	
	計	97,725（千円）	
	分析結果（B/C）	1.96	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 花崗岩が風化したマサ土地帯で荒廃が進んでいる地区であり、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成19年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	伊奈川19（いながわ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署 南木曾支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、長野県木曾郡大桑村の東部に位置し、地質は風化の進んだ粗粒な花崗岩類で構成され非常に脆弱である。木曾山地の急峻な地形等による局地的な豪雨が多発しやすい地区であり、表層滑落型の崩壊が点在する等荒廃が進んでいる。平成15・16年の度重なる台風にもなう集中豪雨により新生崩壊が発生し越百川併用林道に土砂が押し出し通行止めにする被害が発生した。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大及び表面浸食による土砂の流出を防止し、併用林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.40ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	52,330（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	6,227（千円）	
	災害防止便益	75,480（千円）	
	計	81,707（千円）	
	分析結果（B/C）	1.56	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 花崗岩の風化したマサ土地帯で崩壊地が発生しやすい地域であり、自然復旧が困難であることから、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大等により下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり、必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	池ヶ洞（塩蔵谷） （いけがほら（しおぞうだに）） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 飛騨森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県高山市の東部に位置し、乗鞍岳山頂から西方向に延びる稜線に源を發し飛騨川と合流する流域である。付近一帯は断層の破碎作用の影響で脆弱な地質構造となっており、下流域は両岸が切り立った箇所が多く、いたるところで大きく曲流し、溪岸浸食・崩壊が発生し荒廃が進んでいる。平成11年9月の台風16号にともなう集中豪雨では、当地区下流部で大規模な拡大崩壊が発生し、崩壊土砂が下流の発電用取水施設付近まで達する被害をもたらした。また、平成16年10月発生 of 台風23号に伴う集中豪雨では、直接被害は発生しなかったものの、溪岸浸食によって発生した流出土砂が不安定な状態で溪床に堆積しており、土砂災害の危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、温泉施設等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基 山腹工 0.34 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	199,839（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	81,472（千円）	
	災害防止便益	400,842（千円）	
	計	482,314（千円）	
	分析結果（B/C）	2.41	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		





## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	下佐谷（弓折谷） （しもさだに（ゆみおりだに）） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 飛騨森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県高山市北東部の笠ヶ岳西側稜線に続く南西斜面に位置し、地形は傾斜30度以上の大起伏山地によって占められている。地質は、花崗岩類、流紋岩類等で構成され、凍結融解等による風化が進み脆弱で大規模な崩壊地が存在している。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨の際、支溪上流部の崩壊地の拡大崩壊により土石流が発生し、流出土砂が発電用水取水施設の直近まで達した。支流域内には土石流に伴う溪岸浸食や不安定土砂の堆積が進み、下流域は土砂災害の危険性が極めて高くなっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、発電施設等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基 山腹工 1.00 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	202,673（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	27,603（千円）	
	災害防止便益	1,243,861（千円）	
	計	1,271,464（千円）	
	分析結果（B/C）	6.27	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地からの土砂生産の状況や、溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成27年度（10年間）									
事業実施地区名 （都道府県名）	黒内（ふくろ洞支溪） （くろうち（ふくろほらしかい）） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 飛騨森林管理署									
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県飛騨市の西部に位置し、比較的急峻な中小の起伏地形を呈している。地質は濃飛流紋岩類で構成され、活断層の影響を受けて破碎作用が著しいため、脆弱で荒廃が進んでいる。平成11年9月の台風16号にともなう集中豪雨では、上流部の稜線付近に発生した大規模崩壊地が引き金となった土石流によって下流の黒内集落では人家に土砂が流入する等大きな被害が発生した。土石流の発生源である国有林の溪流には、不安定土砂や流木が大量に堆積していたため、資材搬入が可能であった隣接する区域では災害関連緊急事業等による復旧工事を継続実施してきたが、当地区は資材運搬路が無かったことや、下流域工事との調整等の理由から復旧事業を見合わせていたところである。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨では、直接被害の発生は無かったものの、崩壊地の拡大崩壊等により不安定土砂の堆積が進み、下流域に被害をもたらす危険性が極めて高くなっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、黒内集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>溪間工</td> <td>6</td> <td>基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.11</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>資材運搬路</td> <td>1,500</td> <td>m</td> </tr> </table>			溪間工	6	基	山腹工	0.11	ha	資材運搬路	1,500	m
溪間工	6	基										
山腹工	0.11	ha										
資材運搬路	1,500	m										
費用対効果分析	総費用（C）	223,885（千円）										
	総便益（B）	水源かん養便益	14,407（千円）									
		災害防止便益	983,161（千円）									
		計	997,568（千円）									
分析結果（B/C）	4.46											
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性：平成11年には下流の集落が大きな被害を受けた箇所であり、溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>											

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	保木脇（瓜巢） （ほきわき（うりす）） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 飛騨森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県高山市の北西に位置し、比較的急峻な中小の起伏地形を呈しており、地質は濃飛流紋岩等で構成されている。地区内は顕著な崩壊地も無く、溪流及び山腹斜面は比較的安定していたが、平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により、多数の山腹崩壊が発生するとともに土石流が発生し、直下の簡易水道施設・県道・人家等に土砂が押し出す大きな被害が発生した。緊急性の高い溪間工及び山腹工については平成17年度に災害関連緊急治山事業により復旧工事を実施したが、上流部斜面には崩壊地が残存しており、今後の融雪・梅雨期等の集中豪雨により拡大し下流域へ再び土砂災害を発生させる危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大及び表面浸食による土砂の流出を防止し、瓜巢集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.15 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	26,711（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	2,452（千円）	
	災害防止便益	245,262（千円）	
	計	247,714（千円）	
	分析結果（B/C）	9.27	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：平成16年には下流の水道施設・人家・県道等が大きな被害を受けており、崩壊地の状況等から放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	大白川（間名古谷） （おしらかや（まなごたに）） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 飛騨森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県大野郡白川村の白山連峰北東側に位置している。地質は左岸側が濃飛流紋岩、右岸側が白山火山岩類が分布しており、源流部の高山帯には大規模な特殊荒廃地が多く荒廃が進んでいる。平成16年8月の台風16号にともなう集中豪雨により、土石流が発生し県道白山公園線が通行止となる被害が発生した。緊急性の高い箇所については平成17年度に災害関連緊急治山事業により溪間工を施工したところであるが、現在も下流の溪床内には相当量の不安定土砂が堆積しており、このまま放置すると今後の降雨時に流出し下流に被害を与える恐れが高まっている。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、県道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 4基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	148,221（千円）	
	総便益（B）	水源かん養便益	175,141（千円）
		災害防止便益	471,927（千円）
		計	647,068（千円）
	分析結果（B/C）	4.37	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：平成16年に県道が被害を受けた箇所であり、不安定土砂の状況等から放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸崩壊の拡大や土石流の発生により再度被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、不安定土砂が安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	川上（本谷下流） （かおれ（ほんたにかりゅう）） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 岐阜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県下呂市馬瀬北部に位置し、地形は急傾斜地が多く、地質は、濃飛流紋岩類で断層などに影響されて基岩の割れ目や破碎が発達する等、荒廃が進んでいる。平成16年8月の台風16号にともなう集中豪雨により、山腹崩壊が発生し、崩壊土砂が川上本谷まで達し、下流部にある養魚場の取水口が埋没する被害が発生した。崩壊地下部には現在でも不安定土砂として堆積していることから、今後の降雨等により山腹崩壊が拡大し土砂が流出し、下流域へ被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大及び表面浸食による土砂の流出を防止し、奥川上集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.25ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	41,346（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	2,162（千円）	
	災害防止便益	235,537（千円）	
	計	237,699（千円）	
	分析結果（B/C）	5.75	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 現在も崩壊地の拡大が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地が拡大し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）				
事業実施地区名 （都道府県名）	足打谷（あしうちたに） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 岐阜森林管理署				
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県揖斐郡揖斐川町の南端に位置し、地形は壮年期地形を有し、谷は深く斜面の傾斜は急峻である。地質は、中・古生層の砂岩及び粘板岩の互層からなり、檜原谷から当地区にかけて通っている檜原断層により破碎作用を受け脆弱な地質構造となっている。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により、上流部山腹に新生崩壊地が発生し、溪床に堆積した土砂と共に多量の土砂が流出し林道を通り止めにする被害が発生した。崩壊地及び溪床には現在でも不安定土砂が堆積していることから、今後の降雨等により山腹崩壊が拡大し土砂が流出し、下流域へ被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、六合集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>溪間工</td> <td>2基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.14ha</td> </tr> </table>			溪間工	2基	山腹工	0.14ha
溪間工	2基						
山腹工	0.14ha						
費用対効果分析	総費用（C）	80,934（千円）					
	総便益（B）						
		水源かん養便益	27,543（千円）				
		国土保全便益	293,001（千円）				
		計	320,544（千円）				
	分析結果（B/C）	3.96					
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>						

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	井 洞（いぼら） （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 岐阜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県郡上市の北西に位置している。地質は、デイサイト溶結凝灰岩、流紋岩、非溶結火砕岩からなる飛騨流紋岩に覆われ板状節理が発達しており、細かく破碎されルーズな構造であり脆弱で荒廃が進んでいる。平成16年10月の台風23号にともなう集中豪雨により、溪床に堆積していた不安定土砂と共に溪岸を侵食しながら土石流が発生し下流域にまで達した。被害は発生しなかったものの溪床には不安定土砂の堆積が進んでおり、そのまま放置すると、今後の集中豪雨等により土砂流出により下流域へ被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、溪岸荒廃の防止、山脚の固定及び不安定土砂の流出を防止し、上切集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容    溪間工 4基                          根固工 1箇所</p>		
費用対効果分析	総 費 用（C）	74,659（千円）	
	総 便 益（B）		
	水源かん養便益	33,584（千円）	
	災害防止便益	415,421（千円）	
	計	449,005（千円）	
	分析結果（B/C）	6.01	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸荒廃の拡大や土石流の発生により下流に被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	フジ小屋（ふじごや） 岐阜県	事業実施主体	中部森林管理局 東濃森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県恵那市上矢作の恵那山南部、木曾川中流部の上矢作支流の阿岳本谷流域の上部に位置している。地質は風化の進んだ花崗岩類で構成され脆弱で荒廃が進んでいる。平成12年9月の集中豪雨（恵南豪雨災害）では多数の山腹崩壊が発生し、河川の氾濫、住家の流出、浸水などが発生する甚大な災害が発生した。災害の規模が大きく下流部から順次復旧事業を進めてきているが、現在でも崩壊地の拡大が続き、土砂が生産され、不安定土砂の堆積が進み今後の集中豪雨等により土砂が流出し、下流域へ被害を与える危険性が高まっている。このため、山腹崩壊地の拡大及び表面浸食による土砂の流出を防止し、荻原集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1.39ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	178,073（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	47,869（千円）	
	災害防止便益	564,012（千円）	
	計	611,881（千円）	
	分析結果（B/C）	3.44	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：花崗岩の風化したマサ土地帯で崩壊地が発生しやすい地域であり自然復旧が困難であることから、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大等により下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	船岩洞（ふないわぼら） 岐阜県	事業実施主体	中部森林管理局 東濃森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県恵那市上矢作の恵那山南部、木曾川中流部の上矢作支流の阿岳本谷流域の上部に位置している。地質は風化の進んだ花崗岩類で構成され脆弱で荒廃が進んでいる。平成12年9月の集中豪雨（恵南豪雨災害）では多数の山腹崩壊が発生し、河川の氾濫、住家の流出、浸水などが発生する甚大な災害が発生した。災害の規模が大きく下流部から順次復旧事業を進めてきているが、現在でも崩壊地の拡大が続き、土砂が生産され、不安定土砂の堆積が進み今後の集中豪雨等により土砂が流出し、下流域へ被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、萩原集落等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容  溪間工 5基  山腹工 0.67ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	230,889（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	49,006（千円）	
	災害防止便益	1,214,089（千円）	
	計	1,263,095（千円）	
	分析結果（B/C）	5.47	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：花崗岩の風化したマサ土地帯で崩壊地が発生しやすい地域であり自然復旧が困難であることから、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	森林水環境総合整備（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成27年度（10年間）								
事業実施地区名 （都道府県名）	池ヶ谷（いけがたに） 岐阜県	事業実施主体	中部森林管理局 東濃森林管理署								
事業の概要・目的	<p>当地区は、岐阜県中津川市神坂の湯舟沢川支流の池ヶ谷川流域の中・上部に位置し、下流域には中津川市の水道取水施設や東濃用水取水施設があり、東濃地区と中部地域の生活用水、農業用水を供給するための重要な水源地域である。地質は濃飛流紋岩類で構成され、破碎・風化の影響を受けて荒廃が進んでおり、取入施設や貯水施設等に土砂が流入する等の被害があり、不安定土砂の堆積が進んでいることから、土砂流出による被害が懸念されている。</p> <p>このため、不安定土砂の流出を防止するための治山施設を整備するとともに、周辺森林の整備等を行い、良質な生活用水の確保と川並集落等下流域の保全及び水源かん養機能等の保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>83ha</td> </tr> <tr> <td>溪間工</td> <td>7基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>4.02ha</td> </tr> <tr> <td>資材運搬路</td> <td>1,015m</td> </tr> </table>			森林整備	83ha	溪間工	7基	山腹工	4.02ha	資材運搬路	1,015m
森林整備	83ha										
溪間工	7基										
山腹工	4.02ha										
資材運搬路	1,015m										
費用対効果分析	総費用（C）	656,448（千円）									
	総便益（B）										
	水源かん養便益	890,107（千円）									
	環境保全便益	215（千円）									
	災害防止便益	2,357,607（千円）									
	計	3,247,929（千円）									
	分析結果（B/C）	4.95									
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：重要な水源地域であり、溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高く、下流域の保全と森林の持つ水源かん養機能を高度に発揮させるため、荒廃地の復旧整備及び森林の整備等を総合的に実施するものであり、必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、崩壊地の復旧や森林整備により、水土保持機能の増進が図られ、下流域の水源地域確保に資することから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>										

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	崩れ谷（くずれたに） （愛知県）	事業実施主体	中部森林管理局 愛知森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、愛知県豊田市東部に位置し、地形は急峻で、地質は白亜紀後期の花崗岩で構成され風化が進み脆弱で、崩壊地の発生や溪岸浸食による不安定土砂が堆積するなど荒廃が進んでいる。平成16年6月の台風6号にともなう集中豪雨により新生崩壊地が発生し、県道に土砂が流出し通行止めとなる被害が発生した。現在でも溪床には不安定土砂が堆積しており、今後の集中豪雨等により土砂が流出し下流域へ被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、県道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 0.20ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	32,307（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	2,953（千円）	
	災害防止便益	39,742（千円）	
	計	42,695（千円）	
	分析結果（B/C）	1.32	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 花崗岩の風化したマサ土地帯で崩壊地が発生しやすい地域であり、自然復旧が困難であることから、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成22年度 (5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	一の沢 (いちのさわ) (愛知県)	事業実施主体	中部森林管理局 愛知森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、愛知県北設楽郡設楽町西部に位置し、地形は急峻で、地質は傾家変成岩、片麻岩で構成され、節理が発達しており、表層剥離型の崩壊地が発生し、溪床には不安定土砂及び転石の堆積が進んでいる。平成16年6月の台風6号にもなう集中豪雨により新生崩壊地が発生し、林道に土砂が流出し通行止めとなる被害が発生した。現在でも溪床には不安定土砂が堆積しており、今後の集中豪雨等により土砂が流出し下流域へ被害を与える危険性が高まっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、併用林道等下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 0.31ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	60,870 (千円)	
	総便益 (B)		
	水源かん養便益	5,977 (千円)	
	災害防止便益	83,458 (千円)	
	計	89,435 (千円)	
	分析結果 (B/C)	1.47	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況等から、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と溪間工により山脚の固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>有効性： 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	翁沢（おきなさわ） （愛知県）	事業実施主体	中部森林管理局 愛知森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、愛知県岡崎市東部に位置し、地域一帯は、本宮山県立自然公園に指定され年間を通して入込み者が多い地区である。地形は急峻で、地質は片麻岩等で構成され、集中豪雨等により溪岸浸食が進み一部不安定土砂が堆積している。平成7年度から8年度に溪間工を施工しているが、平成16年6月の台風6号にもなう集中豪雨により溪岸浸食が発生し、林道に土砂が流出し通行止めとなる被害が発生した。</p> <p>このため、乱流による溪岸浸食の拡大等を防止するため、既設溪間工と一体となった流路工を設置し、林道等下流の保全及び保安林機能の増進を図るために本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 流路工 56.5m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	9,615（千円）	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	878（千円）	
	災害防止便益	36,831（千円）	
	計	37,709（千円）	
	分析結果（B/C）	3.92	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 下流にはロッジ等の保全対象があり入り込み者も多く、放置すると今後の集中豪雨等の際に溪岸浸食が拡大し土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高い。このため、流路工により溪岸浸食等を防止し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性： 本事業を実施することにより、流路が安定し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18～22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	じやだに 蛇谷 （石川県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 石川森林管理署
事業の概要・目的	<p>蛇谷地区は、石川県白山市の南東部に位置し、手取川水系上流部の蛇谷川に面しており、急峻な地形を呈する山地である。</p> <p>当地区は、平成16年の集中豪雨により、山腹崩壊が発生して、崩壊土砂が白山スーパー林道や民有林内にも流出し、溪流の荒廃が著しい状況にある。</p> <p>自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。</p> <p>このため、民有林と連携を図り効果的に事業を実施し、下流域のスーパー林道等の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 山腹工 0.23ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	100,898千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	39,164千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	177,182千円
		計	216,346千円
	分析結果（B/C）	2.14	
評価結果	<p>・必要性： 山腹崩壊地の復旧と溪床等に堆積する不安定土砂の流下等を抑止し、また下流域の保全等が図られることから当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 民有林と国有林において一体的に事業を実施することにより、効果的な事業が実施でき、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>たによこがわ</small> 谷横川 （福井県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 福井森林管理署
事業の概要・目的	<p>谷横川地区は、福井県池田町の足羽川の上流部、箆掛国有林に位置している。当地区は、H16年の「福井豪雨」により溪床荒廃等により発生した不安定土砂が下流の集落へも流出し、現在も溪流に堆積している状況にある。自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。このため、溪間工を実施することにより、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の林道、集落の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	35,577千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	15,830千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
災害防止便益		52,459千円	
	計	68,289千円	
	分析結果（B/C）	1.92	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 下流には林道等があり、溪床に堆積する不安定土砂を放置すれば今後流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、溪床の安定が図られること、水土保持機能が維持・向上の面からも有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18～22年度 (5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	ひのたに 日ノ谷 (福井県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 福井森林管理署
事業の概要・目的	<p>日ノ谷地区は、福井県大野市(旧 和泉村)の九頭竜ダム上流にある日ノ谷国有林に位置している。</p> <p>当地区は、H14年の梅雨前線による集中豪雨等により溪流荒廃が発生し、その堆積土砂が下流の九頭竜ダム湖に流入しようとしている状況にある。</p> <p>自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。</p> <p>このため、溪間工による山脚固定等、事業を集中的に行うことで、下流域のダム施設の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 9基 山腹工 0.31ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	498,707千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	162,022千円
		山地保全便益	588,510千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	0千円
	計	750,532千円	
	分析結果 (B/C)	1.50	
評価結果	<p>・必要性: 下流には九頭竜ダムがあり、山腹、溪床には不安定土砂が堆積しており、放置すれば拡大崩壊や溪床荒廃が懸念される。また不安定土砂の九頭竜ダム湖への流入を抑止し、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、林地や溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18～22年度（5年間）				
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>えりゅう</small> 江竜 （三重県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 三重森林管理署				
事業の概要・目的	<p>江竜地区は、三重県北牟婁郡紀北町の北西部、赤羽川水系の上流部に位置している。</p> <p>当地区は、平成16年発生 of 台風21号に伴う集中豪雨により多数の崩壊地が発生し、溪床には不安定土砂が堆積しており、下流の林道等が被災を受けた。</p> <p>自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。</p> <p>このため、民有林と連携を図り、山腹崩壊地の復旧や、溪間工による山脚固定による効果的な事業を実施し、下流域の集落等の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>2基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>1.78ha</td> </tr> </table>			溪間工	2基	山腹工	1.78ha
溪間工	2基						
山腹工	1.78ha						
費用対効果分析	総費用（C）	158,940千円					
	総便益（B）	水源かん養便益	44,717千円				
		山地保全便益	0千円				
		環境保全便益	0千円				
		災害防止便益	234,014千円				
		計	278,731千円				
	分析結果（B/C）	1.75					
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の復旧と溪床等に堆積する不安定土砂の流下等を抑止し、また下流域の保全等が図られることから当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 民有林と国有林において一体的に事業を実施することにより、効果的な事業が実施でき、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>						

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18～22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	しみずだに 清水谷 （三重県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 三重森林管理署
事業の概要・目的	<p>清水谷地区は、三重県熊野市の北西部、熊野川水系の上流部、大又川周辺に位置している。</p> <p>当地区は、平成16年発生 of 台風21号に伴う集中豪雨により、小規模な山腹崩壊や溪岸浸食が発生した。国有林内の林道は原型をとどめず、溪床にはその際発生した不安定土砂が堆積している状況にある。</p> <p>自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。</p> <p>このため、民有林と連携を図り、森林整備による林地保全や、溪間工による山脚固定による効果的な事業を実施し、下流域の集落等の保全並びに水土保全機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 5基 森林整備 10.0ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	160,761千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	69,165千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	247,194千円
		計	316,359千円
	分析結果（B/C）	1.97	
評価結果	<p>・必要性： 森林整備促進と溪床等に堆積する不安定土砂の流下等を抑止し、また下流域の保全等が図られることから当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 民有林と国有林において一体的に事業を実施することにより、効果的な事業が実施でき、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18～20年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<sup>にしみやづ</sup> 西宮津 （京都府）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>西宮津地区は京都府宮津市の中央部に位置しており、「天の橋立」で有名な宮津湾に注ぐ大手川支流の上流部を対象としている。</p> <p>当地区は平成16年の台風23号による集中豪雨により山腹崩壊、溪流浸食が発生し、その下流にある国道、人家等へも土砂が流出し被害をもたらした。崩壊地は岩盤が露出している箇所もあるが、上部の表層には雨裂が発生しており浸食が進んでいる。また、溪流も浸食されており今後の降雨等により更に荒廃が進む危険性がある。</p> <p>このため、溪床に堆積している不安定土砂を溪間工を階段状に施工することで山脚固定を図り、また山腹崩壊地の拡大を防止することで、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため、民有林と連携を図り事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 8基 山腹工 0.06ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	105,531千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	15,733千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	1,849,587千円
		計	1,865,320千円
	分析結果（B/C）	17.68	
	<p>（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。）</p>		
評価結果	<p>・必要性： 山脚固定や溪床等に堆積する不安定土砂の流下を抑止し、また下流域の人家等の保全が図られることから当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 民有林と国有林において一体的に事業を実施することにより、効果的な事業が実施でき、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>たからかわ</small> 高羅川 (兵庫県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署
事業の概要・目的	<p>高羅川地区は、千種川上流、三室国有林内に位置している。 当地区は、平成16年の台風23号により山腹崩壊、溪岸浸食が発生し、溪床には不安定土砂が堆積している。また既設の溪間工は全てが満砂の状況にあり、今後の降雨等による拡大崩壊や、堆積している土砂により下流域へ甚大な被害を及ぼす恐れがある。 このため、溪間工や山腹工を実施し、山腹崩壊地の拡大及び溪床に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容    溪間工            1基                          山腹工    0.08ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	28,846千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	6,839千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	50,536千円
		計	57,375千円
	分析結果 (B/C)	1.99	
評価結果	<p>・必要性: 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>ほちまんたにがわ</small> 八幡谷川 (兵庫県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署
事業の概要・目的	<p>八幡谷川地区は、三木市美嚢川の支流、三木山国有林内に位置している。当地区は、平成16年の台風23号の影響により山腹崩壊が発生し、不安定土砂が堆積しているとともに、既設構造物も被害を受けた状況にあり、今後の降雨等による拡大崩壊や、堆積している土砂により下流域へ甚大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、山腹工を実施し保安林機能の増進を図り、山腹崩壊地の拡大と不安定土砂の流出を防止することで、下流域の人家を保全するとともに、水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.01ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	17,308千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	796千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	38,478千円
		計	39,274千円
	分析結果 (B/C)	2.27	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 人家、県道にも隣接しており、このまま放置すれば、不安定土砂の流出や、集中豪雨による拡大崩壊が懸念される恐れがあり、下流域の人家の保全及び水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある人家県道等施設の維持はもとより、崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<sup>ありがほら</sup> 有ヶ原 (兵庫県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署
事業の概要・目的	<p>有ヶ原地区は、揖保川上流、有ヶ原国有林内に位置している。 当地区は、平成16年の台風23号により既設山腹工を一部破壊する山腹崩壊が発生し、不安定土砂が堆積している状況にある。今後の降雨等による拡大崩壊や、堆積している土砂により下流域へ甚大な被害を及ぼす恐れがある。 このため、不安定土砂の生産地である山腹崩壊地を復旧することにより、山腹崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.13ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	11,538千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	2,131千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	22,732千円
		計	24,863千円
	分析結果 (B/C)	2.15	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 堆積する不安定土砂の状況から、このまま放置すれば集中豪雨等により崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>みのたにかわ</small> 蓑谷川 (和歌山県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署
事業の概要・目的	<p>蓑谷川地区は、和歌山県田辺市龍神村の日高川上流、笠塔山国有林内に位置している。 当地区は下流域の重要な水源地域となっているが、溪岸には連続する形で浸食面が発達しており、また、溪流荒廃が著しく、今後の降雨等で生産された土砂により下流域へ甚大な被害を及ぼす恐れがある。 このため、溪間工による土砂流出の抑止並びに溪床の安定と山脚の固定を行なうことで不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	15,385千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	8,835千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	40,219千円
		計	49,054千円
	分析結果 (B/C)	3.19	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 溪床に堆積する不安定土砂の状況から、豪雨等により溪岸浸食等の拡大が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある人家等の維持はもとより、溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18～22年度（5年間）																					
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>くもんだに</small> 公門谷 （和歌山県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署																					
事業の概要・目的	<p>公門谷地区は、和歌山県田辺市の熊野川上流に位置する中辺路町及び本宮町の地区を対象としている。</p> <p>当地区は下流域の重要な水源地域となっているが、集中豪雨等により山腹崩壊地や風倒木被害が国有林・民有林に点在し、また、流出した土砂等により溪流荒廃が著しく、今後の降雨等で崩壊地の拡大に加え生産された土砂により下流域へ甚大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、民有林と連携を図り、森林整備による林地保全や、溪間工による山脚固定等を実施し効果的な事業を進めることで、下流域の集落等の保全並びに水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>3基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>2.85ha</td> </tr> <tr> <td>森林整備</td> <td>27.00ha</td> </tr> </table>			溪間工	3基	山腹工	2.85ha	森林整備	27.00ha															
溪間工	3基																							
山腹工	2.85ha																							
森林整備	27.00ha																							
費用対効果分析	<table style="width: 100%;"> <tr> <td>総費用（C）</td> <td></td> <td>154,555千円</td> </tr> <tr> <td>総便益（B）</td> <td>水源かん養便益</td> <td>405,413千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山地保全便益</td> <td>0千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境保全便益</td> <td>0千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>災害防止便益</td> <td>1,607,302千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>2,012,715千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B/C）</td> <td></td> <td>13.02</td> </tr> </table> <p>（治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。）</p>			総費用（C）		154,555千円	総便益（B）	水源かん養便益	405,413千円		山地保全便益	0千円		環境保全便益	0千円		災害防止便益	1,607,302千円		計	2,012,715千円	分析結果（B/C）		13.02
総費用（C）		154,555千円																						
総便益（B）	水源かん養便益	405,413千円																						
	山地保全便益	0千円																						
	環境保全便益	0千円																						
	災害防止便益	1,607,302千円																						
	計	2,012,715千円																						
分析結果（B/C）		13.02																						
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 森林整備促進と溪床等に堆積する不安定土砂の流下等を抑止し、また下流域の保全等が図られることから当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 民有林と国有林において一体的に事業を実施することにより、効果的な事業が実施でき、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>																							

## 事前評価個表

事業名	森林水環境総合整備（国有林）	事業計画期間	平成18～22年度（5年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	とうせん 東山 （鳥取県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 鳥取森林管理署						
事業の概要・目的	<p>東山地区は千代川支流八東川の上流、東山国有林内に位置している。当地区は、集中豪雨等により山腹崩壊が発生し、また崩壊地からの崩落土砂が溪床に流出し、中流部では不安定土砂が二次浸食を受けている状況である。さらに地区内の過密林分では下層植生が衰退しつつある。</p> <p>下流域には、糸白見及び須澄集落の飲料水、農業用水等が取水されているなど、若桜町から鳥取市に至る重要な水源山地となっており、早急な対策が望まれているところである。</p> <p>このため、森林整備による林地保全と良質な水資源の確保や、溪間工、山腹工の施行による、山腹崩壊地の拡大防止及び不安定土砂の流出防止を一体的に行うことにより、下流域の保全並びに水土保全機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p style="margin-left: 20px;">主な事業内容</p> <table style="margin-left: 40px; border: none;"> <tr> <td>溪間工</td> <td style="text-align: right;">4基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td style="text-align: right;">1.02ha</td> </tr> <tr> <td>森林整備</td> <td style="text-align: right;">151.52ha</td> </tr> </table>			溪間工	4基	山腹工	1.02ha	森林整備	151.52ha
溪間工	4基								
山腹工	1.02ha								
森林整備	151.52ha								
費用対効果分析	総費用（C）	200,930千円							
	総便益（B）	水源かん養便益	665,618千円						
		山地保全便益	163,149千円						
		環境保全便益	0千円						
災害防止便益		0千円							
	計	828,767千円							
	分析結果（B/C）	4.12							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 取水施設の上流部に位置する地区で、放置すれば豪雨等による崩壊地の拡大や不安定土砂の流下する恐れがあるため、下流域の保全及び水土保全機能の発揮のためにも当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>								

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策 (国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	ふるや 古谷 (岡山県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 岡山森林管理署
事業の概要・目的	<p>古谷地区は岡山県新見市の高梁川上流、古谷国有林内に位置している。当地区は、平成16年の台風23号等により、山腹崩壊が発生し作業道等が被害を受け、林内には不安定土砂が堆積している状況にある。                  自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。                  このため、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の林道等の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p style="text-align: center;">主な事業内容 山腹工 0.10ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	6,731千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	3,107千円
		山地保全便益	29,535千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	0千円
		計	32,642千円
	分析結果(B/C)	4.85	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 山腹崩壊地にある不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等により不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	七ヶ所山9 (広島県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>七ヶ所山9地区は広島県北東部、江の川源流である七ヶ所山国有林内に位置している。 当地区は平成16年の台風23号により、折損、倒木被害及び山腹崩壊が発生した。被災箇所直下にはJR木次線が走行しており、放置すれば今後の降雨等で崩壊地の拡大に加え、風倒木や不安定土砂によりJR木次線や下流域へ甚大な被害を及ぼす恐れがある。 このため、山腹工を実施し不安定土砂等の移動を抑止することで、公共施設を保全し、更に水土保全機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1.96ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	28,846千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	16,049千円
		山地保全便益	87,777千円
		環境保全便益	0千円
災害防止便益		0千円	
	計	103,826千円	
	分析結果 (B/C)	3.60	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 山腹崩壊地に堆積する不安定土砂等の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂等が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保全機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策 (国有林)	事業計画期間	平成年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	はら 原 (広島県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>原地区は、広島県神石郡の高梁川上流、御所ヶ谷国有林に位置している。当地区は、水源のかん養等公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高い地区である。平成17年の雪害等により折損被害や倒木等が発生し、新たな山腹崩壊や土砂流出が懸念される状況にある。</p> <p>このため、被害木の除去と植栽等により、植生の回復を図るとともに、不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 2.00ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	22,289千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	13,628千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	139,892千円
		計	153,520千円
	分析結果 (B/C)	6.89	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 下流には1級河川高梁川や県道等があり、林地被害の状況から、放置すれば下流への土砂等が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>ふえきやま</small> 笛木山765 (広島県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島森林管理署
事業の概要・目的	<p>笛木山765林班地区は、広島県福山市の芦田川上流、笛木山国有林内に位置している。 当地区は、平成16年の台風23号により山腹崩壊が発生し、不安定土砂が堆積している状況にある。 自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。 このため、山腹崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.30ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	34,072千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	2,220千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	61,203千円
		計	63,423千円
	分析結果 (B/C)	1.86	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大及び不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>ぶつうじやま</small> 仏通寺山1012 (広島県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島森林管理署
事業の概要・目的	<p>仏通寺山1012地区は広島県三原市の沼田川上流、仏通寺山国有林に位置している。          当地区は、平成16年の台風23号により山腹崩壊が発生し、林道も被災を受け、不安定土砂が堆積している状況にある。          自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。          このため、山腹崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.05ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	6,337千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	748千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	17,487千円
		計	18,235千円
	分析結果 (B/C)	2.88	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大及び不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目 (チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		



## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策 (国有林)	事業計画期間	平成18年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>かわいだにやま</small> 川井谷山 (広島県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島森林管理署
事業の概要・目的	<p>川井谷山地区は、広島県福山市の神谷川上流、川井谷山国有林及び猿ヶ城山国有林に位置している。</p> <p>当地区は、水源のかん養等公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高い地区である。平成16年の台風等により風倒木被害が発生し、新たな山腹崩壊や土砂流出が懸念される状況にある。</p> <p>このため、被害木の除去と植栽等により、植生の回復を図るとともに、不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 2.40ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	13,942千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	9,807千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	121,118千円
		計	130,925千円
	分析結果(B/C)	9.39	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性: 1級河川芦田川の上流域で林地被害の状況から、放置すれば下流への土砂等が流下する恐れがあり、早期に緑化等を行い森林に復旧することで、下流域の保全等水土保持機能の発揮に繋がるため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策 (国有林)	事業計画期間	平成18～20年度(3年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	木頃山 (広島県)	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島森林管理署
事業の概要・目的	<p>木頃山地区は、広島県府中市の矢多田川上流、木頃山国有林に位置している。当地区は、水源のかん養等公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高い地区である。平成15年度の大雪、16年度の台風等により立木の折損、風倒木被害が発生し、山腹崩壊箇所の拡大や土砂流出が懸念される状況にある。</p> <p>このため、被害木の除去と植栽等により、植生の回復を図るとともに、不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保全機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 8.76ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	38,388千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	52,598千円
		山地保全便益	392,310千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	0千円
		計	444,908千円
	分析結果(B/C)	11.59	
	(治山事業の実施により発揮される保全効果の区域内に、人家・公共施設などが多く含まれること等からB/Cの値が高いものとなっている。)		
評価結果	<p>・必要性: 1級河川芦田川の上流域で林地被害の状況から、放置すれば下流への土砂等が流下する恐れがあり、早期に緑化等を行い森林に復旧することで、下流域の保全等水土保全機能の発揮に繋がるため当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性: 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性: 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<sup>うらいし</sup> 浦石 （山口県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 山口森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>浦石地区は、山口県玖珂郡錦町宇佐川上流、容谷山国有林内に位置している。当地区は、平成17年の集中豪雨により風倒木被害や溪流崩壊が発生し多量の立木・土砂が発生した状況である。</p> <p>自然環境の維持・保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮に関する地域の要請が高いことから、早急な対策が望まれているところである。</p> <p>このため、溪間工による不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	12,500千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	5,138千円
		山地保全便益	0千円
		環境保全便益	0千円
		災害防止便益	17,487千円
		計	22,625千円
	分析結果（B/C）	1.81	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、下流にある施設の維持はもとより、崩壊地の復旧、溪床の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

# 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>すえみだにやま</small> 末美谷山 （香川県）	事業実施主体	四国森林管理局 香川森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、香川県西部に位置し、地形が急峻で脆弱な地質構造となっており、平成16年の台風等豪雨では、山腹崩壊が発生し崩壊土砂が下流に流出するとともに、溪床には不安定土砂が多量に堆積した状態となっている。 このため、崩壊地等の復旧整備を民有林、国有林が連携して実施し、水土保持機能の維持向上を図るものである。</p> <p style="text-align: center;">                 主な事業内容      溪間工                      7基                      （内民有林 2基）                         山腹工                      0.50HA             </p>		
費用対効果分析	総費用（C）	252,358千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	7,062千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	614,259千円
		計	621,321千円
分析結果（B/C）		2.46	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地を放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるとともに、溪床に堆積した不安定土砂が流出する危険性があることから、当事業を実施するものである。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地発生土石や木材を利用する等、最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成22年度 (5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	にしひらやま 西平山 (高知県)	事業実施主体	四国森林管理局 四万十森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、高知県西部土佐清水市三崎川上流に位置し、平成13年の秋雨豪雨(高知県西南豪雨災害)により山腹崩壊、溪流荒廃が多発した箇所であり、現在も崩壊土砂の流出や不安定土砂の堆積が見られる。 このため、崩壊地等の復旧整備を実施し、水土保持機能の維持向上を図るものである。</p> <p style="margin-left: 40px;">主な事業内容          溪間工          6基                                  山腹工      0.09HA</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	150,925千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	6,867千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	223,499千円
		計	230,366千円
	分析結果(B/C)	1.53	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地を放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるとともに、溪流に堆積した不安定土砂が流出する危険性があることから、当事業を実施するものである。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、崩壊地の復旧や溪流に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地発生土石や木材を利用する等、最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成22年度 (5年間)				
事業実施地区名 (都道府県名)	おおこみやま 大古味山 (高知県)	事業実施主体	四国森林管理局 四万十森林管理署				
事業の概要・目的	<p>当地区は、高知県西部四万十川上流に位置し、地形が急峻で脆弱な地質のため小規模な山腹崩壊、溪流荒廃が発生していたが、平成16年の台風災害等で山腹崩壊、溪流荒廃が一気に進み崩壊土砂が下流へ流出するとともに、溪床には不安定土砂が多量に堆積した状態となっている。 このため、崩壊地等の復旧整備を実施し、水土保持機能の維持向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>4基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.07HA</td> </tr> </table>			溪間工	4基	山腹工	0.07HA
溪間工	4基						
山腹工	0.07HA						
費用対効果分析	総費用 (C)	104,690千円					
	総便益 (B)	水源かん養便益	9,676千円				
		山地保全便益	千円				
		環境保全便益	千円				
		災害防止便益	188,128千円				
		計	197,804千円				
	分析結果 (B/C)	1.89					
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地を放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるとともに、溪床に堆積した不安定土砂が流出する危険性があることから、当事業を実施するものである。</li> <li>・ 有効性： 当該事業の実施により、崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地発生土石や木材を利用する等、最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>						

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	いの 猪野 （福岡県）	事業実施主体	九州森林管理局 福岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福岡市北東部に位置する猪野川の上流に位置し、地形は全般に急峻で地質は変成岩からなっており、風化が激しく土壌は砂質で浅いため非常に壊れやすい性質を有している。 過去に施工された治山ダム等は、これまでの台風、集中豪雨等で満砂状況となっている。 このため、流域に堆積した不安定土砂の安定と山脚固定による溪岸浸食防止のため、早期に溪間工を施工し復旧を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	22,019	千円
	総便益（B）	8,470	千円
	水源かん養便益		千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	103,329	千円
	計	111,799	千円
	分析結果（B/C）	5.08	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	白糸 <small>しらいと</small> （福岡県）	事業実施主体	九州森林管理局 福岡森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、佐賀県境羽金山の北側斜面に位置し、地形は全般に急峻な上昇斜面を呈しており、地質は深成岩の花崗岩を基岩とし、砂質の土壌は崩壊しやすい状況にあるため、集中豪雨により奥地の森林では山腹崩壊が発生し多量の不安定土砂が堆積している。</p> <p>このため、今後の豪雨等により山腹崩壊地が拡大して、不安定土砂が下流域へ流下する恐れがあることから、早期に山腹工を施工し、崩壊地の復旧整備を実施して保安林機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.25 ha</p>			
費用対効果分析	総費用（C）		14,423	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	4,177	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	39,742	千円
		計	43,919	千円
	分析結果（B/C）		3.05	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 山腹崩壊地に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、不安定土砂の発生防止及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>			



## 事前評価個表

事業名	生活環境保全林整備（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成21年度（4年間）												
事業実施地区名 （都道府県名）	さつき松原 <sup>まつばら</sup> （福岡県）	事業実施主体	九州森林管理局 福岡森林管理署												
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福岡県宗像市の北方に位置し、玄界灘に注ぐ釣川河口に広がる東西約5キロ、約140ヘクタールの松林である。 この松林は樹齢200年近いクロマツ等が約20万本群生しており、玄海国立公園にも指定されており白砂青松と県森林浴百選にも選ばれ、市民の憩いの場となっており、また防風保安林としても重要な役割を果たしてきた。 しかしながら、近年の台風、松くい虫の被害等により生育が著しく阻害されるなどの状況にある。 このため、潮害防備機能を高め、健全な防災林を造成し、併せて森林レクリエーションの場の提供等を目的に事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">森林整備</td> <td style="width: 10%;">64</td> <td style="width: 10%;">ha</td> <td style="width: 10%;">植栽工</td> <td style="width: 10%;">8</td> <td style="width: 10%;">ha</td> </tr> <tr> <td>防風柵</td> <td>300</td> <td>m</td> <td>管理歩道</td> <td>1,500</td> <td>m</td> </tr> </table>			森林整備	64	ha	植栽工	8	ha	防風柵	300	m	管理歩道	1,500	m
森林整備	64	ha	植栽工	8	ha										
防風柵	300	m	管理歩道	1,500	m										
費用対効果分析	総費用（C）	81,142 千円													
	総便益（B）	水源かん養便益	164,092 千円												
		山地保全便益	2,246 千円												
		環境保全便益	98,020 千円												
		災害防止便益	317,340 千円												
	計	581,698 千円													
	分析結果（B/C）	7.17													
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 当該地域は、潮害防備機能の発揮が強く求められる箇所であり、また、市民の憩いの場として、保健休養機能の充実も必要であることから森林整備事業等の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 防災機能の強化による地域保全と、当事業の実施により、保健休養の場として人とのふれあいの場の提供が図られ、全ての人が享受できる安全でうおいのある環境の保全・充実が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>														

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>きたかわち</small> 北河内 (長崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 長崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、大村市の北東多良山系の経ヶ岳、多良岳、五家原岳の北側に位置し、昨年の集中豪雨により山腹崩壊が発生し、溪床内に多量の不安定土砂が堆積している。</p> <p>下流には上下水道等を目的とする萱瀬ダムがあり、今後、溪床内に堆積した多量の不安定土砂の降雨等による下流域への流出を防止するため、早期に溪間工を施工し、渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	14,423 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	4,551 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	77,084 千円
		計	81,635 千円
	分析結果 (B/C)	5.66	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	おおかわら 大川原 (長崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 長崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、九州最西端五島列島の福江島西部に位置し、昨年の集中豪雨等により当溪流上流部で発生した山腹崩壊地からの不安定土砂が溪床内に多量に堆積している。</p> <p>このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	19,231	千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	7,955 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	30,994 千円
		計	38,949 千円
	分析結果 (B/C)	2.03	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成 18 年度 (1 年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<sup>あさも</sup> 浅藻 (長崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 長崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、対馬下島の最南端に位置し、昨年<sup>の</sup>集中豪雨等により溪流浸食が発生し、溪床内に多量の不安定土砂が堆積している。 このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)		18,269 千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	4,225 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	54,039 千円
		計	58,264 千円
	分析結果 (B/C)		3.19
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ふかえ</small> 深江 （長崎県）	事業実施主体	九州森林管理局 長崎森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、長崎県深江町の深江川上流に位置し、西には国見岳、妙見岳が連ねている。 近年の台風、集中豪雨等により山腹崩壊が発生、崩壊した不安定土砂が山腹面に多量に堆積している。 このため、今後の豪雨等により山腹崩壊地が拡大し、不安定土砂が下流域へ流下する恐れがあることから、早期に山腹工を施工し、崩壊地の復旧整備を実施して保安林機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.05 ha</p>			
費用対効果分析	総費用（C）		13,462	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	5,399	千円
		山地保全便益		千円
		環境保全便益		千円
		災害防止便益	59,363	千円
		計	64,762	千円
	分析結果（B/C）		4.81	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、不安定土砂の発生防止及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>			

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	よしほら 吉原 (熊本県)	事業実施主体	九州森林管理局 熊本森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、熊本県山鹿市の東部に位置し、平成16年の台風による集中豪雨により山腹崩壊が発生した。 崩壊地には多量の土砂と倒木が堆積しており、今後の豪雨により下流へ流出し被害を与える恐れがある。 また、崩壊地に一部露出している露岩面は風化が進行しており、斜面の不安定化や、崩壊地側面部へ拡大崩壊する恐れもある。 このため、早急に山腹工を施工し、崩壊土砂等の流出防止及び崩壊斜面の安定による保安林機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.14 ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	11,538	千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	1,277 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	43,525 千円
	計	44,802	千円
	分析結果 (B/C)	3.88	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 山腹崩壊地に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、不安定土砂の発生防止及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	限界状態設計法等実証（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>だいかんざん</small> 大官山 （熊本県）	事業実施主体	九州森林管理局 熊本森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、熊本県山都町の東部（旧清和村）の緑川上流に位置し、平成16年の台風による集中豪雨で、上流に山腹崩壊が発生し、その流出した土砂が下流保全対象の林道等に被害を与え、溪床にはまだ多量の不安定土砂が堆積している。このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>あわせて本事業は、工事コスト等の縮減等を検証し、新たな設計手法の普及に資することを目的として実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	15,385	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	1,340 千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	69,492	千円
	計	70,832	千円
	分析結果（B/C）	4.60	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業により、山脚の固定及び溪床に堆積する土砂の安定が図られると同時に、治山工作物の限界状態設計法等の現場工事におけるコスト縮減等が検証され、技術基準、標準歩掛等の検討及び治山技術の向上が図られることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成21年度（4年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>げんたえん</small> 源太園 （熊本県）	事業実施主体	九州森林管理局 熊本森林管理署						
事業の概要・目的	<p>当該地区は、熊本県小国町の東部、湧蓋山を山頂とした汐井川、北里川等の一級河川上流に位置する。          昨年の集中豪雨により、国有林・民有林に広範囲にわたり多数の山腹崩壊、溪流荒廃が発生し下流域に多大な被害を発生させた。          このことから、平成18年度から新たな事業として、国有林・民有林が連携して事業を実施し、溪間工等により荒廃地の復旧を早期に、効果的に実施するものである。</p> <p>主な事業内容（国有林計画）</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>9</td> <td>基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.22</td> <td>ha</td> </tr> </table>			溪間工	9	基	山腹工	0.22	ha
溪間工	9	基							
山腹工	0.22	ha							
費用対効果分析	総費用（C）	731,202	千円						
	総便益（B）								
	水源かん養便益	99,039	千円						
	山地保全便益		千円						
	環境保全便益		千円						
	災害防止便益	3,785,356	千円						
	計	3,884,395	千円						
	分析結果（B/C）	5.31							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>								



## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成 18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>みのだに</small> 蓑谷 (熊本県)	事業実施主体	九州森林管理局 熊本南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は、宮崎県境牧良山の南西部、蓑谷川上流に位置し、地形は急峻で地質は砂岩、頁岩等からなり基岩の風化が激しく、集中豪雨等による山腹崩壊や溪流荒廃が多数発生し、下流保全対象に多大な被害を与え、現在も多量の不安定土砂が堆積している。</p> <p>このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	21,635 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	6,185 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	45,279 千円
		計	51,464 千円
	分析結果 (B/C)	2.38	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	特定流域総合治山（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	湧出山 （大分県）	事業実施主体	九州森林管理局 大分西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は、大分県九重町の南西部、小国町の北東部にあり、湧蓋山を山頂とした町田川、玖珠川の一級河川上流に位置する。昨年<sup>わいたさん</sup>の集中豪雨により、国有林・民有林に広範囲にわたり多数の山腹崩壊、溪流荒廃が発生し下流域に多大な被害が発生させた。このことから、平成18年度から新たな事業として、国有林・民有林が連携して事業を実施し、溪間工等により荒廃地の復旧を早期に、効果的に実施するものである。</p> <p>主な事業内容（国有林計画）</p> <p style="text-align: right;">溪間工 15 基 山腹工 0.23 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	948,830	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	176,862 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	5,690,936 千円
		計	5,867,798 千円
	分析結果（B/C）	6.18	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>なつき</small> 夏木 (大分県)	事業実施主体	九州森林管理局 大分森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県境夏木山の東部に位置し、桑原川上流の溪流である。地形は極めて急峻で地質は砂岩、粘板岩、安山岩等からなっている。          現在、集中豪雨等により当溪流上流域で発生した山腹崩壊地からの不安定土砂が溪床内に多量に堆積している。          このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容          溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)		14,423 千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	7,882 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	23,845 千円
		計	31,727 千円
	分析結果 (B/C)		2.20
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>むこうやま</small> 向山 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県椎葉村の西部、耳川上流域に位置する。 地形は、標高1000mを越える高峯が散在し、起伏が険しい山岳地形を呈しているが、山頂部は平坦に近い山頂緩斜面を呈している。 平成17年の台風14号の襲来で林内には多数の山腹崩壊地が発生し、不安定土砂が溪床内に多量に堆積した。また、過去に施工された治山ダム等は、これまでの集中豪雨等で満砂状況となっている。 このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	15,385	千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	4,974 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	75,301 千円
	計	80,275	千円
	分析結果 (B/C)	5.22	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	生活環境保全林 (国有林)	事業計画期間	平成18年度～平成21年度 (4年間)								
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>のべおか</small> 延岡 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎北部森林管理署								
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県延岡市の日向灘に隣接する沿線に位置し、風光明媚な海岸林一体は、日豊海岸国定公園に指定され、白砂青松の美しい箇所として地域の人々から保健休養の場として活用され親しまれている。</p> <p>林帯を形成している植生状況は、近年の相次ぐ台風等の襲来による沿岸部の林帯の決壊や潮害等により保安林機能が著しく低下している。</p> <p>このようなことから、保安林機能の維持増進と保健休養機能の向上のため植栽工及び管理歩道等を整備し、治山効果と保健機能の効果を兼ね備えた保安林の整備を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>・木製防風柵工</td> <td>1,000 m</td> <td>・森林整備</td> <td>90 ha</td> </tr> <tr> <td>・歩道修理</td> <td>3,000 m</td> <td>・防護柵</td> <td>500 m</td> </tr> </table>			・木製防風柵工	1,000 m	・森林整備	90 ha	・歩道修理	3,000 m	・防護柵	500 m
・木製防風柵工	1,000 m	・森林整備	90 ha								
・歩道修理	3,000 m	・防護柵	500 m								
費用対効果分析	総費用 (C)		81,957 千円								
	総便益 (B)	水源かん養便益	359,282 千円								
		山地保全便益	3,259 千円								
		環境保全便益	36,758 千円								
		災害防止便益	千円								
	計		399,299 千円								
	分析結果 (B/C)		4.87								
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 当事業箇所は、宮崎県延岡市の市街地と隣接しており、地域住民の保健・休養・スポーツ等の自然休養林として多くの人々に活用されており保安林機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 地域住民を含む多くの人々に保健休養の場として活用されており、保安林機能の維持増進と保健休養機能の向上が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>										

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>かみおりと</small> 上折登 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 西都児湯森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県西都市の北西部にある国見山の南東側に位置し、地形は全般に急峻で急斜面が多く、起伏も多い地形となっている。 近年の台風の襲来等により、奥地には多数の山腹崩壊地が発生しており、溪床内には多量の不安定土砂が堆積している。 このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)		14,423 千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	32,429 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	37,834 千円
		計	70,263 千円
	分析結果 (B/C)		4.87
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	まっぼら 松原 （宮崎県）	事業実施主体	九州森林管理局 西都児湯森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県西都市の北西部にある国見山の東側に位置し、下流域には一ツ瀬ダムがある。地質の大部分は第3紀から古生代にかけての四万十層群が広く分布しており、脆弱である。</p> <p>近年の台風の襲来等で奥地の林地内では、多数の山腹崩壊地が発生しており、不安定土砂が多量に堆積している。</p> <p>また、未整備箇所の過密化した林分の一部表土には、降雨等による表土流出が見られ、森林の公益的機能の低下から、今後の降雨等で崩壊地の拡大と崩壊土砂等の流出の恐れがある。</p> <p>このため、人力施工による森林整備と併せて現地に発生する材料等を有効活用した効率的な山腹工を実施し、保安林の公益的機能の充実を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.05 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	11,538 千円	
	総便益（B）	<p>水源かん養便益 2,845 千円</p> <p>山地保全便益 22,371 千円</p> <p>環境保全便益 千円</p> <p>災害防止便益 千円</p>	
	計	25,216 千円	
	分析結果（B/C）	2.19	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 過密化した林分の状況から森林の荒廃が著しく進行しており、このまま放置すれば崩壊地の発生と既存の崩壊地の拡大が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、不安定土砂の発生防止及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地発生材の利用等、効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>かみどうやしき</small> 上堂屋敷 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県須木村を流れる本庄川の上流域に位置し、地形は、谷間では急峻な斜面を呈しているが、山頂部は緩斜面が多い。地質は中生代後期の四万十層群からなっている。</p> <p>平成17年の台風14号の襲来により、山間奥地の林地で山腹崩壊地が発生し現地内には多量の不安定土砂が堆積している。</p> <p>このため、今後の豪雨等により山腹崩壊地が拡大して、不安定土砂が下流域へ流下する恐れがあることから、早期に山腹工を施工し、崩壊地の復旧整備を実施して保安林機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工      0.30 ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)		24,038 千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	10,125 千円
		山地保全便益	79,835 千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	89,960 千円
	分析結果 (B/C)		3.74
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 山腹崩壊地に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、不安定土砂の発生防止及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	ほんたの 本田野 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県宮崎市東部の田野地区に位置する。 平成17年の台風14号の襲来により、田野地区の鰐塚山系周辺では、未曾有の山腹崩壊地と地すべりが発生し、多量の不安定土砂が溪床内に堆積している。 このため、今後の豪雨等により山腹崩壊地が拡大して、不安定土砂が下流域へ流下する恐れがあることから、早期に山腹工を施工し、崩壊地の復旧整備を実施して保安林機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">山腹工      0.90 ha</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	83,654	千円
	総便益 (B)	11,337	千円
	水源かん養便益		千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	176,149	千円
	計	187,486	千円
	分析結果 (B/C)	2.24	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、不安定土砂の発生防止及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	水源流域広域保全（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度（5年間）								
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ゆその</small> 柚園 （宮崎県）	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎森林管理署								
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県中央部を流れる大淀川支流の綾北川上流域に位置し、多目的ダムとして建設された綾北ダムもあり、下流地域の水源地として、古くから森林造成等が推進されてきた地域である。</p> <p>また、近年の台風等の襲来等により奥地の林内では、山腹崩壊地が発生し不安定土砂等の流出による林地荒廃等と森林被害が進行しており、水源かん養機能等の保安林機能の低下が著しくなっているために保安林機能の維持・向上が急務となっている。</p> <p>このため、山腹崩壊地及び不安定土砂が堆積している渓流域の整備と森林整備等を総合的に実施して、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">溪間工</td> <td style="width: 30%;">1 基</td> <td style="width: 30%;">山腹工</td> <td style="width: 10%;">1.20 ha</td> </tr> <tr> <td>森林整備</td> <td>610 ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			溪間工	1 基	山腹工	1.20 ha	森林整備	610 ha		
溪間工	1 基	山腹工	1.20 ha								
森林整備	610 ha										
費用対効果分析	総費用（C）	169,156	千円								
	総便益（B）										
	水源かん養便益	607,833	千円								
	山地保全便益	475,508	千円								
	環境保全便益		千円								
	災害防止便益		千円								
	計	1,083,341	千円								
	分析結果（B/C）	6.40									
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>										

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	さかくら 作鹿倉 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎森林管理署 都城支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県えびの市の川内川流域の長江・池島川支流白鳥川の源流に位置し、地形は韓国岳、甑岳、白鳥山の中腹以上の急斜面を除けば、穏やかな裾野状である。地質は第四紀の火山砕屑物・安山岩で古い溶岩流の上にスコリア質の火山噴出物が堆積している</p> <p>平成17年の台風14号により、奥山の林地内で山腹崩壊が発生し、溪床内には多量の不安定土砂が流出している。</p> <p>このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	20,192	千円
	総便益 (B)	5,822	千円
	水源かん養便益		千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	87,452	千円
	計	93,274	千円
	分析結果 (B/C)	4.62	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	海岸防災林造成 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>まるやま</small> 丸山 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県南東部の日南市に流れる広渡川の下流域に位置し、日向灘沿線に隣接する海岸防災林造成地域である。</p> <p>近年の台風の襲来等により、潮害防備保安林の沿岸部が浸食され、林帯の決壊による被害が進行しており、背後にある国道、人家等の保全対象等に被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、浸食が著しい海岸部に護岸工を設けて、波浪等による被害から林帯の決壊を防ぎ、保安林機能の維持・造成を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">護岸工 1 箇所</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	30,288	千円
	総便益 (B)		
	水源かん養便益		千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	108,603	千円
	計	108,603	千円
	分析結果 (B/C)	3.59	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 従来からの台風等の襲来により、沿岸部の浸食が著しく進行したため、このまま放置しておくこと保安林機能の消滅が懸念されることから当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 当事業の実施により、高波、波浪等の被害から保安林の林帯の決壊を防ぎ、保安林の公益的機能の維持・向上が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	はなせ 花瀬 (鹿児島県)	事業実施主体	九州森林管理局 大隅森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、鹿児島県錦江町南東部の肝属山地に位置し、地形は急傾斜地が多く起伏も激しい地形となっており、地質は全般に風化が進んでいる花崗岩質が多い。</p> <p>平成17年の台風14号の襲来により、奥地の林地内で崩壊地が発生し不安定土砂が溪床内に多量に堆積している。</p> <p>このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	15,769 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	2,553 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	39,742 千円
		計	42,295 千円
	分析結果 (B/C)	2.68	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・ 有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>なかのやしき</small> 中ノ屋敷 (鹿児島県)	事業実施主体	九州森林管理局 北薩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、鹿児島県薩摩半島の北西部の出水郡高尾野町に流れる高尾野川の上流域に位置し、下流域には高尾野ダム、国道504号線がある。 平成17年の台風14号の襲来で林内には多数の林地崩壊地が発生し、不安定土砂が溪床内に多量に堆積した。また、過去に施工された治山ダム等は、これまでの集中豪雨等で満砂状況となっている。 このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	17,692 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	21,695 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	58,214 千円
		計	79,909 千円
	分析結果 (B/C)	4.52	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策（国有林）	事業計画期間	平成18年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	くきの 杵野 （鹿児島県）	事業実施主体	九州森林管理局 北薩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、さつま町の川内川上流域に位置し、地質は、四万十層群が広く分布しており、脆弱な地域となっている。 近年の台風の襲来等で奥地の林地内では、多数の山腹崩壊地が発生しており、不安定土砂が多量に堆積している。 また、未整備箇所の過密化した林分の一部表土には、降雨等による表土流出が見られ、森林の公益的機能の低下から、今後の降雨等で崩壊地の拡大と崩壊土砂等の流出の恐れがある。 このため、人力施工による森林整備と併せて現地に発生する材料等を有効活用した効率的な山腹工を実施し、保安林の公益的機能の充実を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.13 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	14,423 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	24,322 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	57,484 千円
		計	81,806 千円
	分析結果（B/C）	5.67	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 過密化した林分の状況から森林の荒廃が著しく進行しており、このまま放置すれば崩壊地の発生と既存の崩壊地の拡大が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、不安定土砂の発生防止及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地発生材の利用等により、効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>くりかわ</small> 栗川 (鹿児島県)	事業実施主体	九州森林管理局 鹿児島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、鹿児島県霧島市の北部(旧牧園町)に位置し、地質は安山岩を基岩として風化の激しい火山灰や火山礫で覆われており脆弱で浸食されやすい地質となっている。</p> <p>平成17年の台風14号の襲来で林内には多数の崩壊地が発生し、不安定土砂が溪床内に多量に堆積した。また、過去に施工された治山ダム等は、これまでの集中豪雨等で満砂状況となっている。</p> <p>このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	15,385	千円
	総便益 (B)	水源かん養便益	4,839 千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	39,516	千円
	計	44,355	千円
	分析結果 (B/C)	2.88	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>かみみやのうらがわ</small> 上宮之浦川 (鹿児島県)	事業実施主体	九州森林管理局 屋久島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、屋久島中央部の宮之浦岳の下流域に位置し、地形は全般に急峻で下降斜面の急傾斜地が多く、また起伏も激しい地形となっている。 近年の台風等の襲来により、奥地で山腹崩壊地が発生し、流域内には多量の不安定土砂が堆積している。 このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	19,231 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	15,731 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	23,845 千円
		計	39,576 千円
	分析結果 (B/C)	2.06	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>なかもやのうらがわ</small> 中宮之浦川 (鹿児島県)	事業実施主体	九州森林管理局 屋久島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、屋久島中央部の宮之浦岳の下流域に位置し、地形は全般に急峻で下降斜面の急傾斜地が多く、また起伏も激しい地形となっている。 近年の台風等の襲来により、奥地で山腹崩壊地が発生し、流域内には多量の不安定土砂が堆積している。 このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	29,808 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	29,422 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	31,794 千円
		計	61,216 千円
	分析結果 (B/C)	2.05	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山 (国有林)	事業計画期間	平成18年度 (1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	美田良 (沖縄県)	事業実施主体	九州森林管理局 沖縄森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、沖縄県竹富町西表島の美田良川上流に位置し、下流域には、道路、田畑等の保全対象が近接している。  地質は、第3紀に属し砂岩や頁岩の互層に薄い炭層を挟んだ八重山狭炭層が広く分布しており脆弱な地質となっている。  平成17年の台風14号の襲来で林内には多数の林地崩壊地が発生し、不安定土砂が溪床内に多量に堆積した。また、過去に施工された治山ダム等は、これまでの集中豪雨等で満砂状況となっている。  このため、溪床内に堆積した多量の不安定土砂が、今後の降雨等で下流域へ流下する恐れがあることから、早期に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容  溪間工 1 基</p>		
費用対効果分析	総費用 (C)	10,385 千円	
	総便益 (B)	水源かん養便益	2,979 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	38,566 千円
		計	41,545 千円
	分析結果 (B/C)	4.00	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		